

Ⅲ 集計分析結果

1 セーフコミュニティ全体

(1)「セーフコミュニティ」の認知度

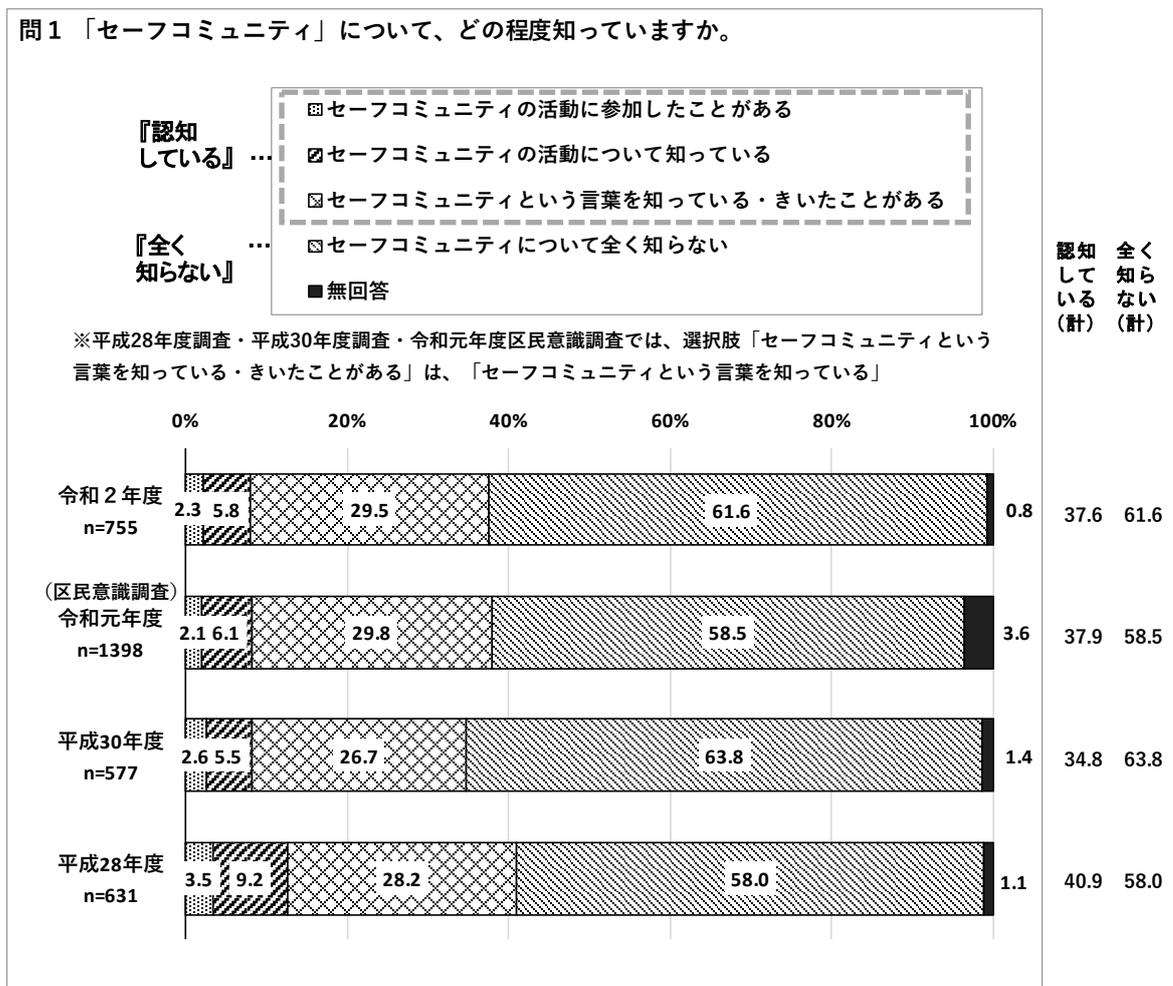
【「セーフコミュニティ」の認知度： 時系列】

<全体>

- ・セーフコミュニティについて、「活動に参加したことがある」(2.3%)、「活動について知っている」(5.8%)、「言葉を知っている・きいたことがある」(29.5%)を合わせると(以下『認知している』)37.6%の方が『認知している』と回答している。
- ・一方、セーフコミュニティについて「全く知らない」割合は61.6%である。

<平成28年度調査・平成30年度調査・令和元年度区民意識調査と比較>

- ・セーフコミュニティについて、いずれの調査でも『認知している』割合は約4割、「全く知らない」割合は約6割となっている。
- ・令和元年度調査と比較すると、『認知している』割合は0.3ポイント減で横ばいという結果になった。



Ⅲ 集計分析結果 (1)「セーフコミュニティ」の認知度

【「セーフコミュニティ」の認知度： 性別・年齢別・地区別】

<性別>

・『認知している』割合は、「女性」が40.8%と「男性」の32.2%に比べて8.6ポイント高い。

<年齢別>

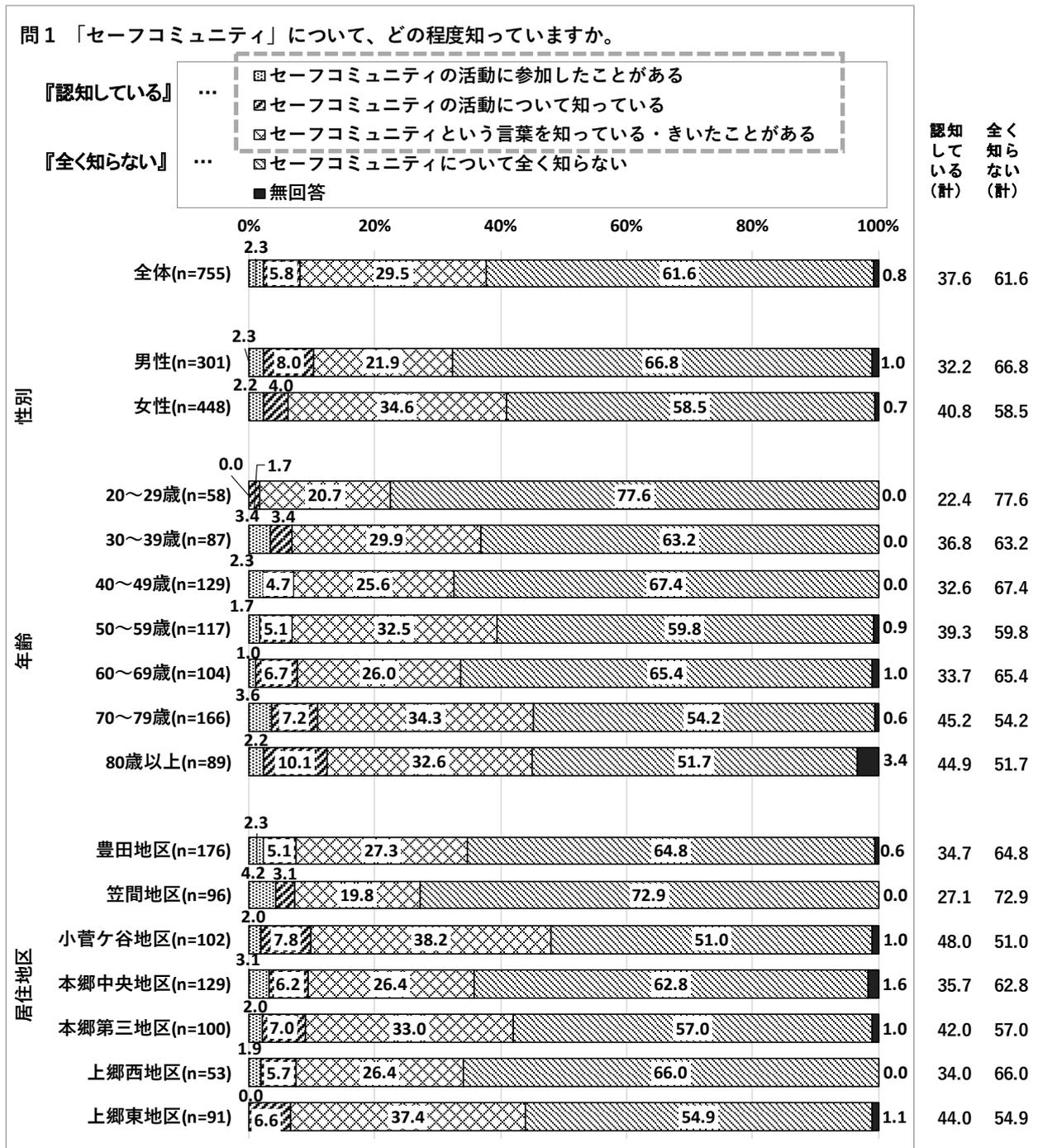
・「20～29歳」では「全く知らない」割合が77.6%と全体より15ポイント以上高い。

・「70～79歳」「80歳以上」では『認知している』割合が、それぞれ45.2%、44.9%と全体より5ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「小菅ヶ谷地区」では『認知している』割合が48.0%と全体より10ポイント以上高い。

・「笠間地区」では「全く知らない」割合が72.9%と全体よりも10ポイント以上高い。



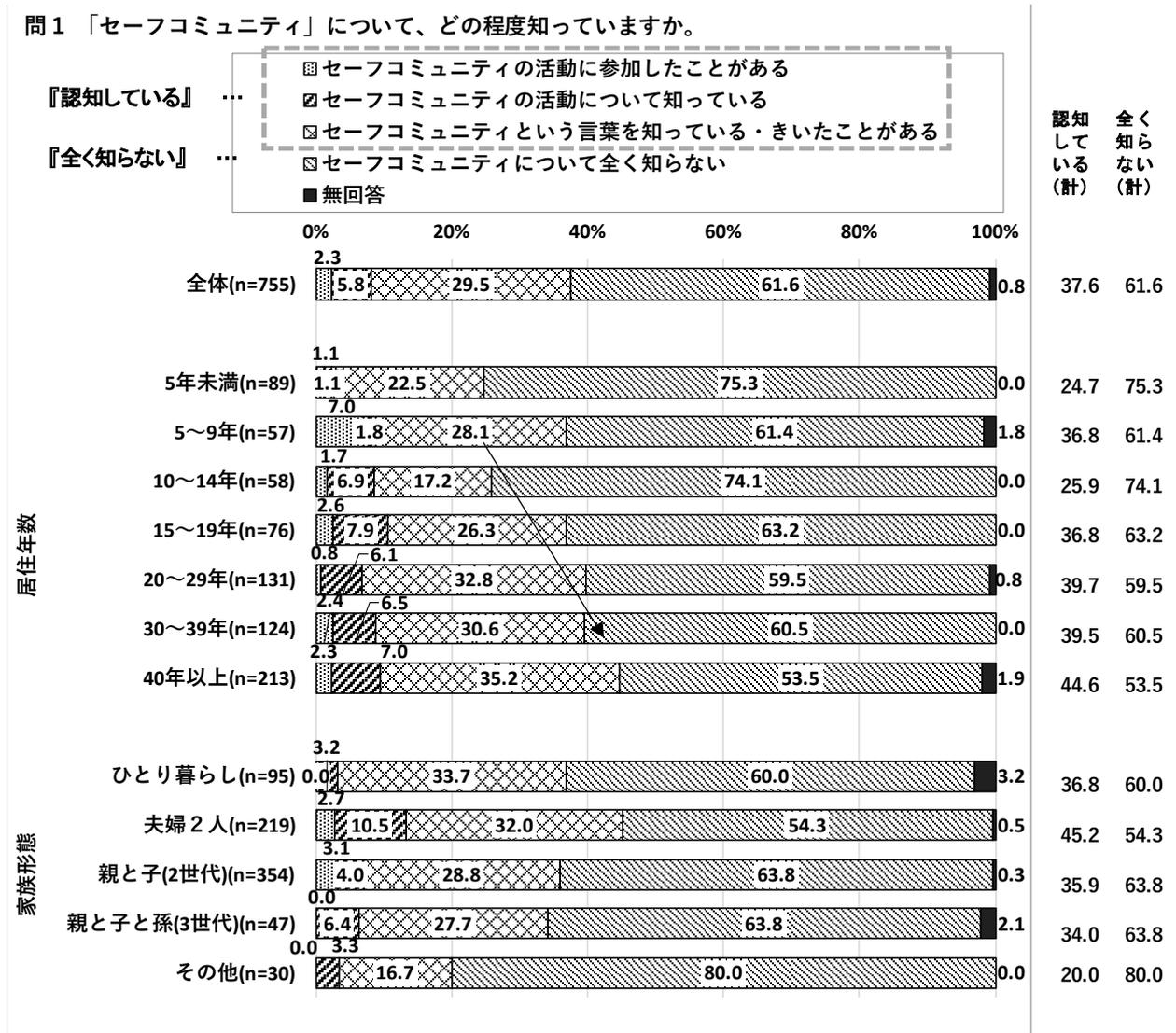
【「セーフコミュニティ」の認知度： 居住年数・家族形態別】

＜居住年数別＞

- ・「40年以上」では『認知している』割合が44.6%と、全体より5ポイント以上高く、10年以上では、居住年数が長くなるほど『認知している』割合が高くなる傾向がみられる。
- ・一方、「全く知らない」割合は、「5年未満」「10～14年」でそれぞれ75.3%、74.1%と、全体より10ポイント以上高い。

＜家族形態別＞

- ・「夫婦2人」では『認知している』割合が45.2%と、全体より5ポイント以上高い。
- ・「親と子(2世代)」「夫婦2人」では「活動に参加したことがある」割合がそれぞれ3.1%、2.7%と、他の家族形態が0%であることに比べるとわずかではあるが参加が見られる。

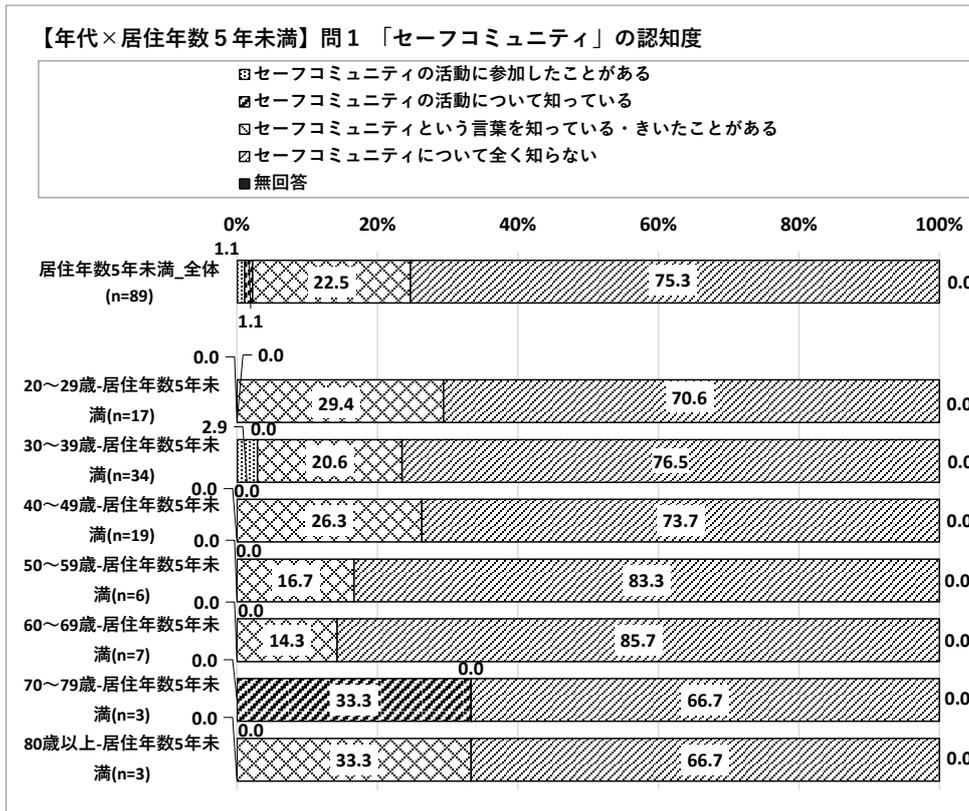


Ⅲ 集計分析結果 (1)「セーフコミュニティ」の認知度

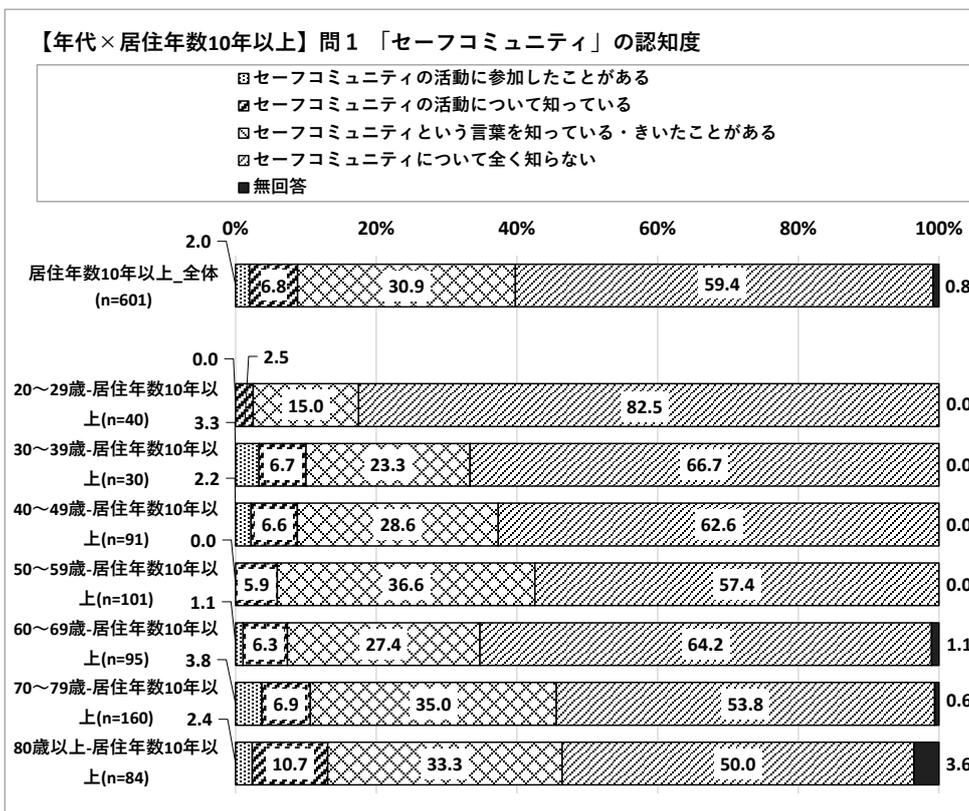
【「セーフコミュニティ」の認知度：年代×居住年数別】

- ・居住年数5年未満については、母数が少ないため参考にとどめる。
- ・居住年数10年以上については、年代が上がるほど認知度が上がる傾向が見られる。

居住年数別 5年未満



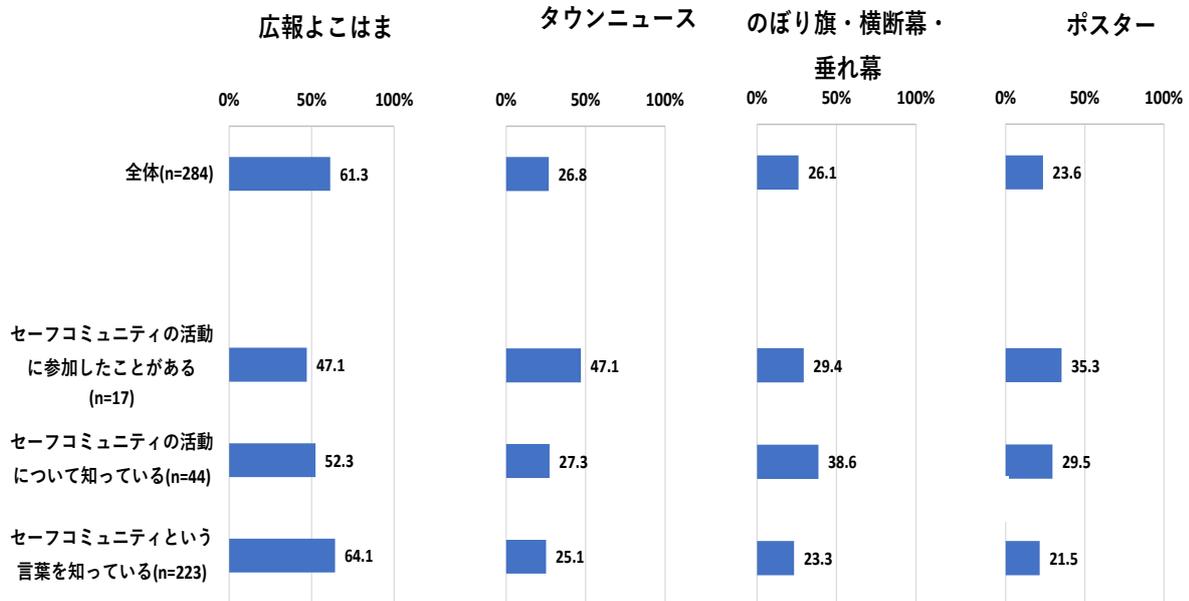
居住年数別 10年以上



【「セーフコミュニティ」の認知度： セーフコミュニティを知った媒体】

- ・セーフコミュニティの認知度について、セーフコミュニティを知った媒体は、「セーフコミュニティの活動に参加したことがある」では「タウンニュース」「ポスター」、「セーフコミュニティの活動について知っている」では「のぼり旗・横断幕・垂れ幕」の割合が全体より10ポイント以上高い。

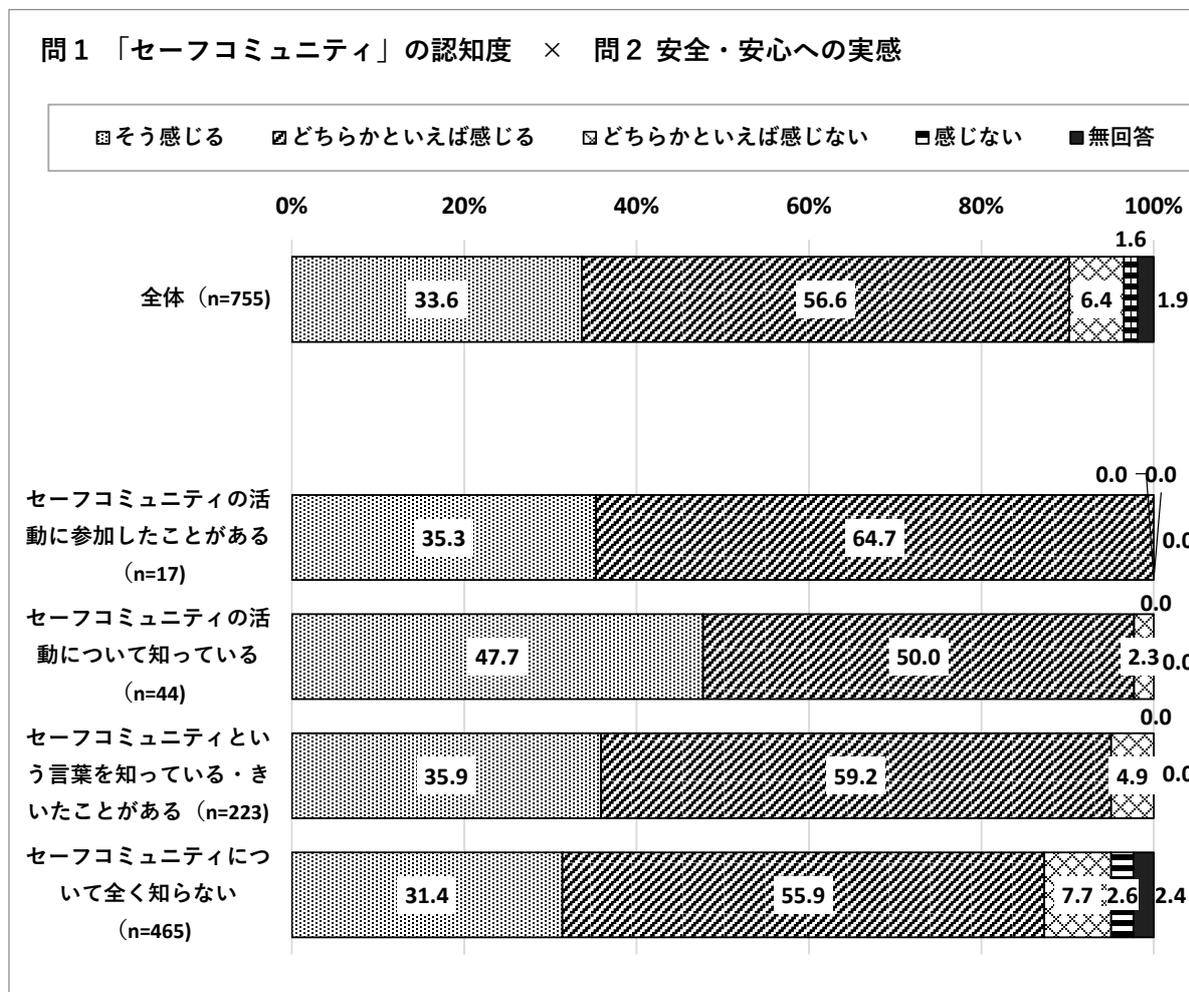
問1 「セーフコミュニティ」の認知度 × 問1-1 セーフコミュニティを知った媒体（上位4項目）



Ⅲ 集計分析結果 (1)「セーフコミュニティ」の認知度

【「セーフコミュニティ」の認知度：(2)安全・安心への実感との相関】

- ・セーフコミュニティの認知度と体感治安の相関については、「セーフコミュニティについて全く知らない」方よりも、「活動に参加したことがある」「活動を知っている」「言葉を知っている」の方が、栄区は安全・安心なまちだと感じますかという問いに対し「そう感じる」「どちらかといえば感じる」と回答した割合が高いという結果になった。



(1) -1 「セーフコミュニティ」を知った媒体

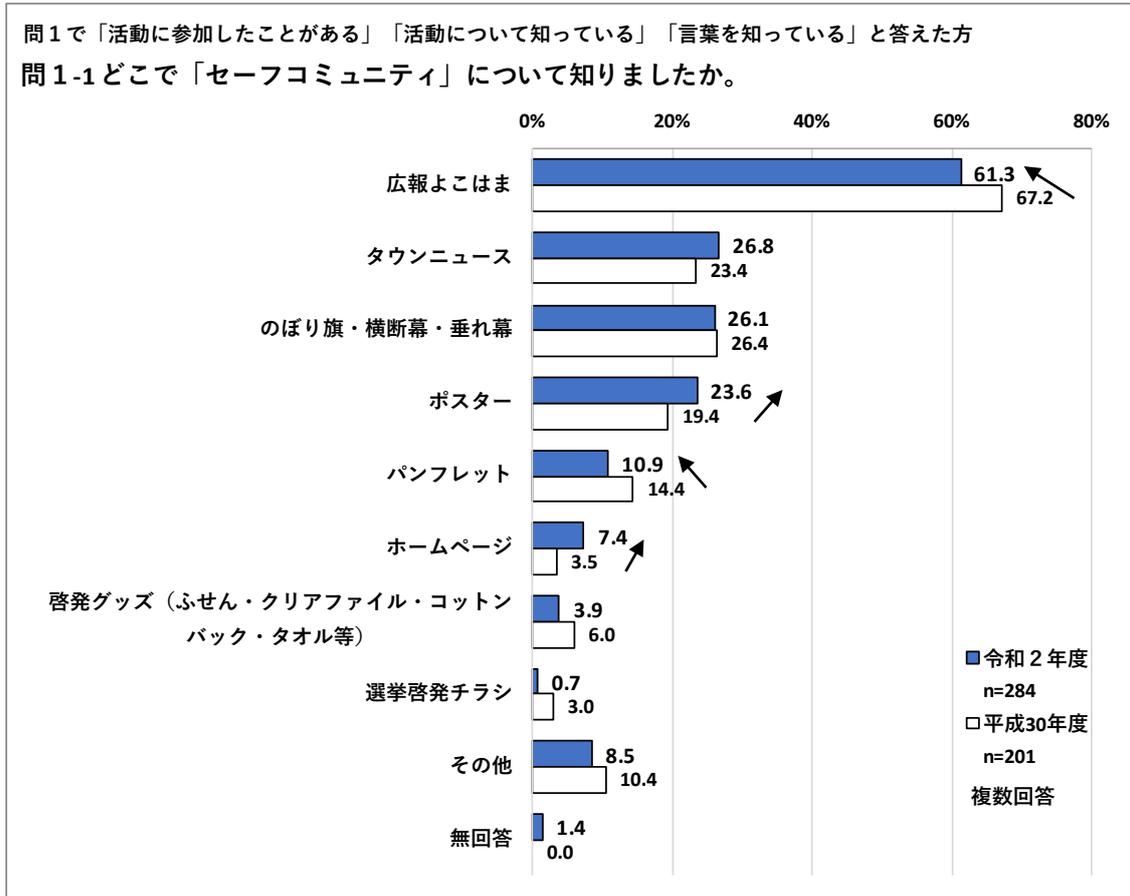
【「セーフコミュニティ」を知った媒体】

<全体>

- ・「広報よこはま」が61.3%で最も多く、「タウンニュース」(26.8%)、「のぼり旗・横断幕・垂れ幕」(26.1%)、「ポスター」(23.6%)の順で続く。

<平成30年度調査と比較>

- ・平成30年度調査と比較して、「ポスター」で4.2ポイント、「ホームページ」で3.9ポイント増加し、「広報よこはま」で5.9ポイント、「パンフレット」で3.5ポイント減少している。



問1-1 どこで「セーフコミュニティ」について知りましたか (その他記述)			
自治会活動	7	新聞、笠間ケアプラザ、学校、区民祭り、	各1
子供の学校	2	子供の検診時、大学の講義、仕事上、	
どこかで聞いたことがある	2	再認証オープニングに参加	
			計 19件

Ⅲ 集計分析結果 (1)-1「セーフコミュニティ」を知った媒体

【「セーフコミュニティ」を知った媒体： 属性別】上位4項目

<性別>

・性別には、大きな差は見られない。

<年齢別>

・若い年代で「ポスター」による認知の割合が高く、年齢が上がるほど「広報よこはま」による認知の割合が高くなる傾向が見られる。

<居住年数別>

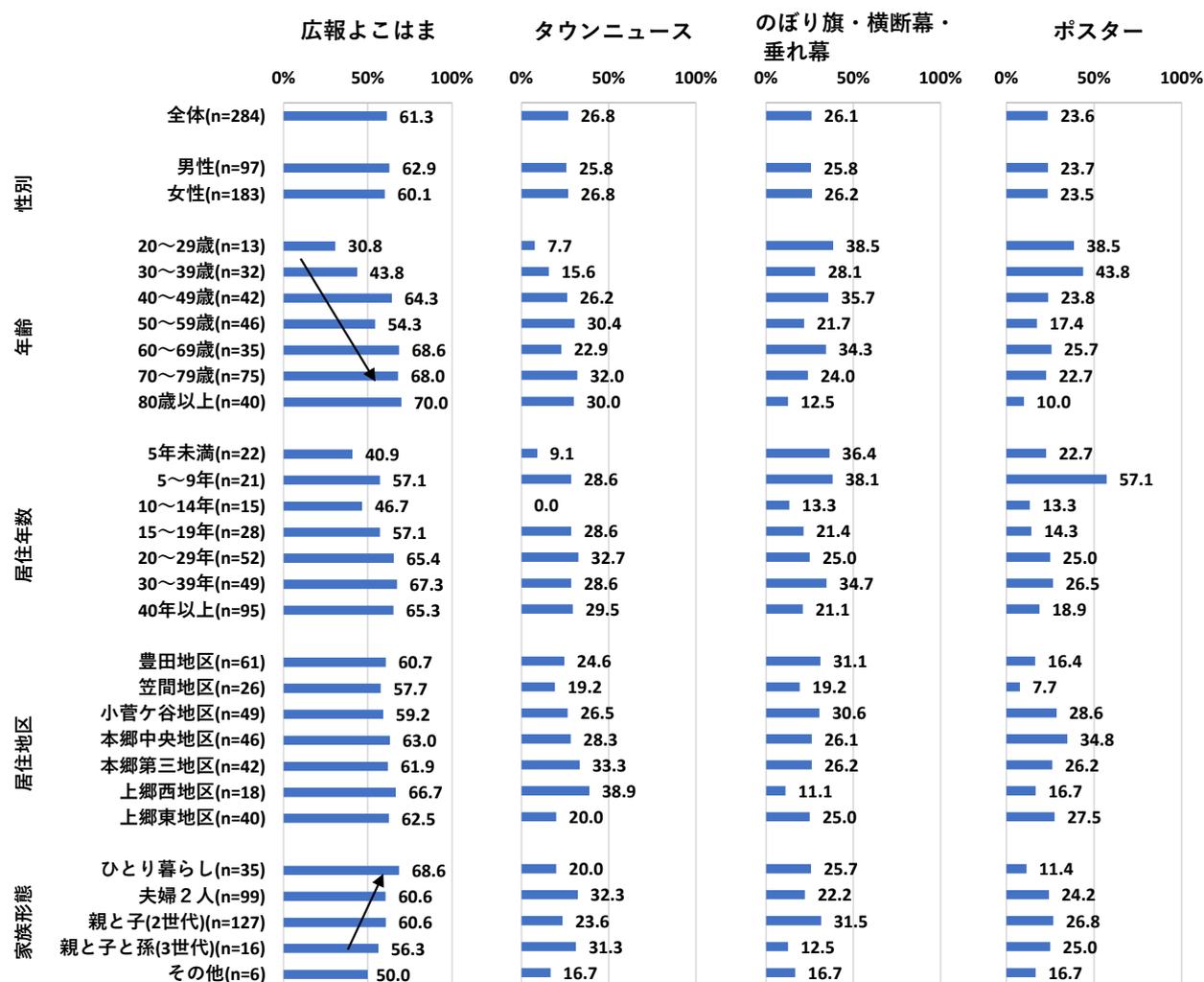
・「5年未満」「5～9年」で「のぼり旗・横断幕・垂れ幕」、「5～9年」で「ポスター」の割合が、全体より10ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「上郷西地区」で「タウンニュース」、「本郷中央地区」で「ポスター」が、全体より10ポイント以上高い。

<家族形態別>

・家族構成の数が少ないほど「広報よこはま」の割合高い傾向が見られる。



(2) 安全・安心への実感

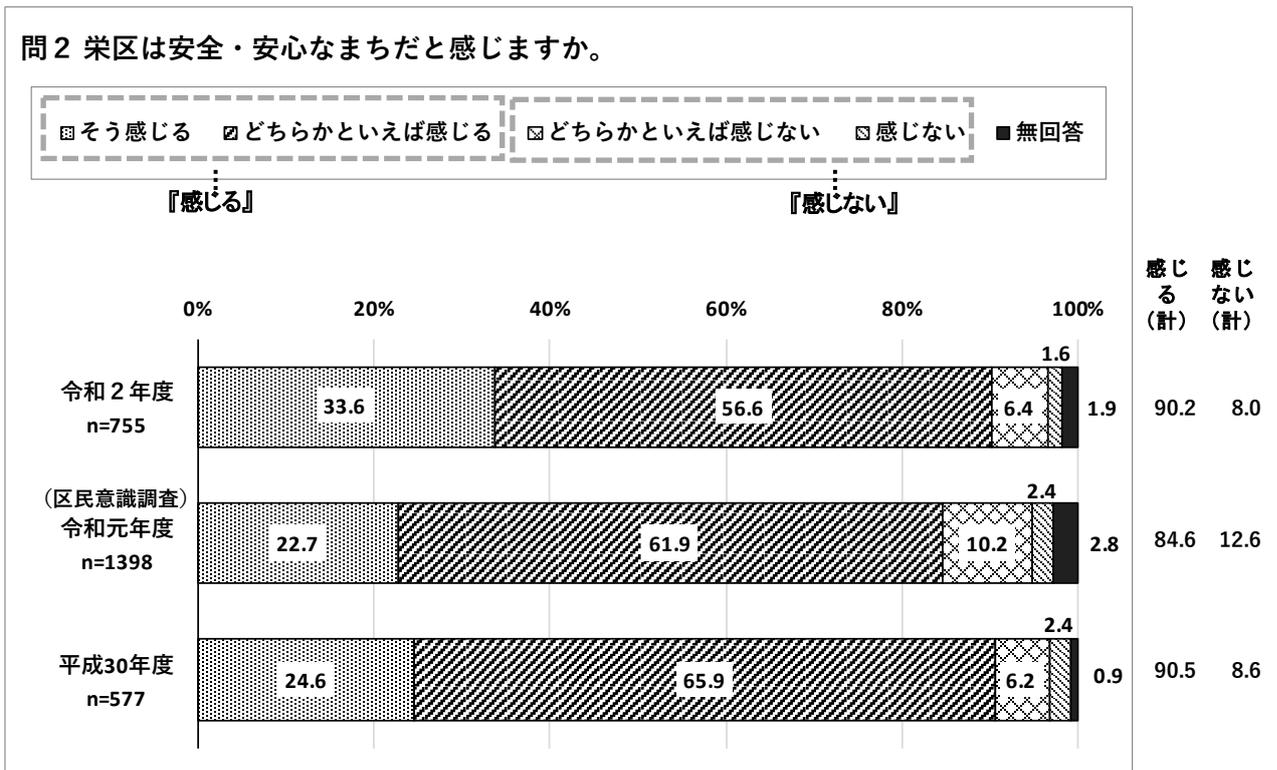
【安全・安心への実感】

<全 体>

- ・「そう感じる」「どちらかといえば感じる」を合わせた『感じる』方が90.2%、「どちらかといえば感じない」「感じない」を合わせた『感じない』方が8.0%となっており、約9割の区民が安全・安心なまちだと感じている。

<平成30年度調査・令和元年度区民意識調査と比較>

- ・「そう感じる」割合を比較すると、平成30年度調査に比べて9.0ポイント、令和元年度調査に比べて10.9ポイントそれぞれ増加した。
- ・「そう感じる」と「どちらかといえば感じる」を合わせた『感じる』割合と比較すると、平成30年度調査と比べると0.3ポイント減少でほぼ同じ、令和元年度調査と比べると5.6ポイント増加という結果になった。



Ⅲ 集計分析結果 (2)安全・安心への実感

【安全・安心への実感： 属性別】

<性別>

・性別には、大きな差は見られない。

<年齢別>

・「20～29歳」で「そう感じる」の割合が44.8%と、全体より10ポイント以上高い。

・「30～39歳」で『感じない』の割合が17.2%と、全体より10ポイント近く高い。

<居住年数別>

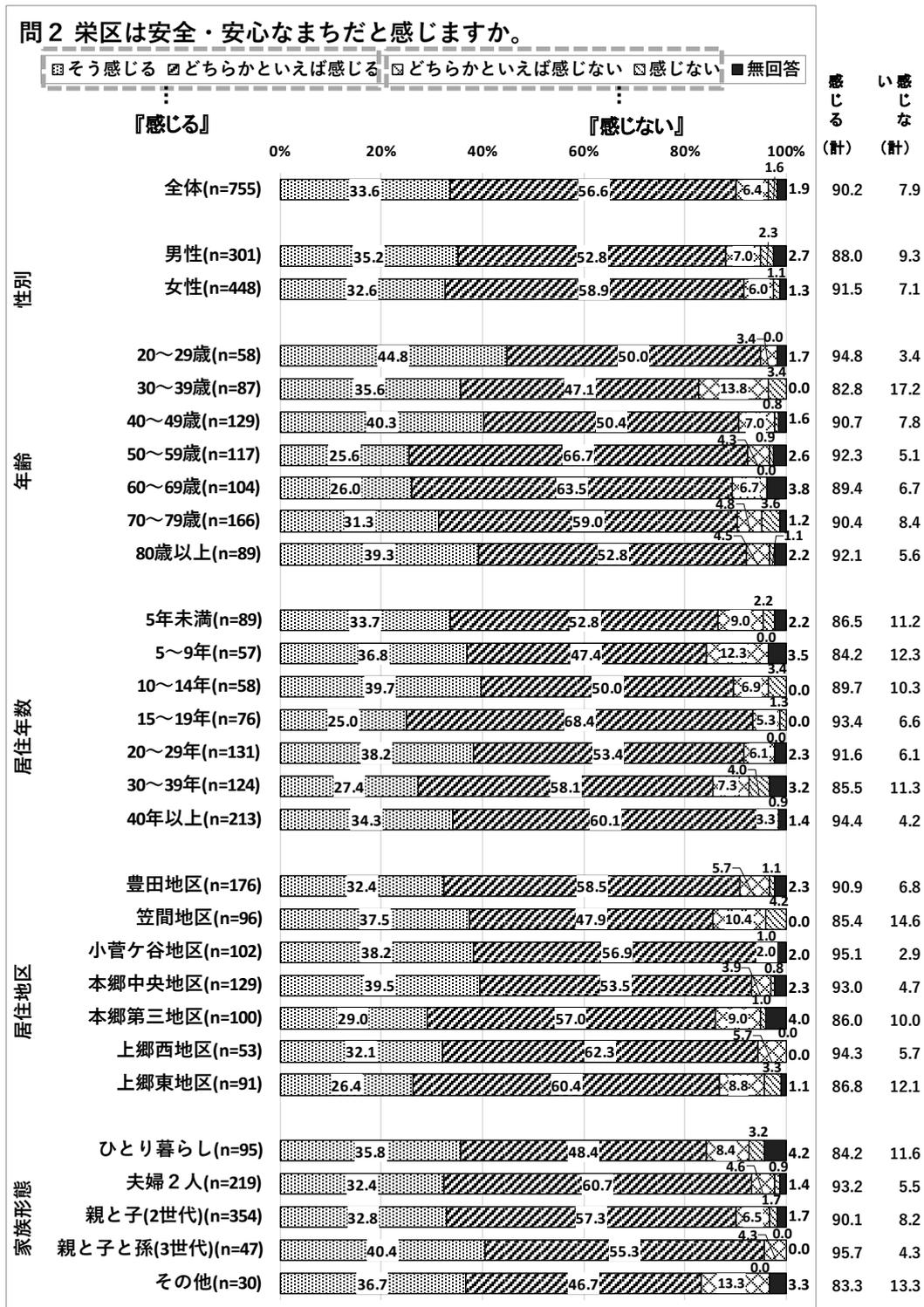
・「5～9年」「30～39年」で『感じる』の割合が全体より5ポイント程度低い。

<居住地区別>

・「笠間地区」で『感じない』の割合が14.6%と全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・家族形態別には、大きな差は見られない。



(3) 身のまわりの心配なこと

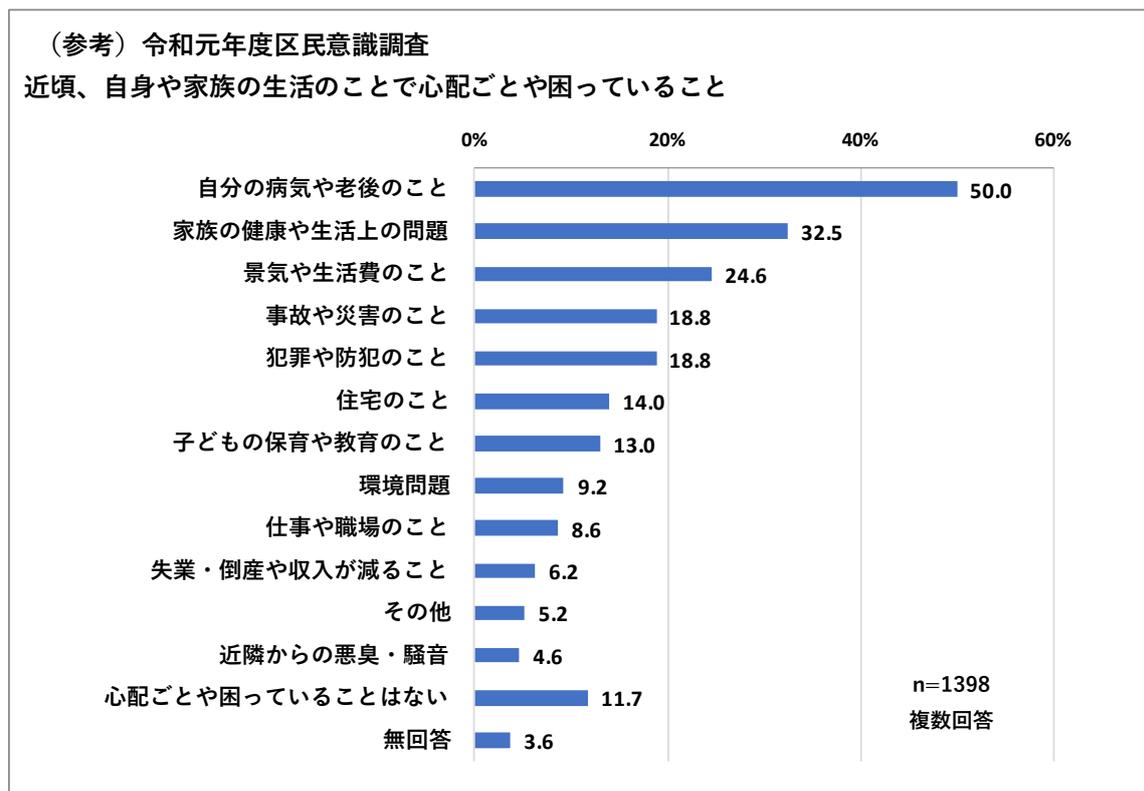
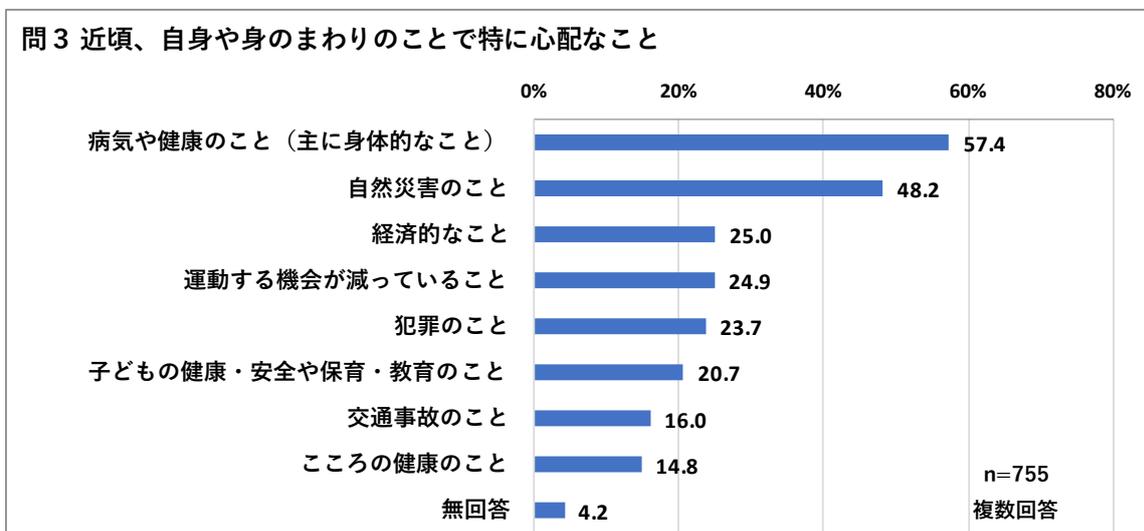
【身のまわりの心配なこと】

<全 体>

・「病気や健康のこと（主に身体的なこと）」が57.4%で最も多く、「自然災害のこと」（48.2%）の順で続く。

<令和元年度区民意識調査と比較>（参考）

・令和元年度区民意識調査では、「自分の病気や老後のこと」「家族の健康や生活上の問題」が最も多く、次いで「景気や生活費のこと」が挙げられている。



Ⅲ 集計分析結果 (3)身のまわりの心配なこと

【身のまわりの心配なこと： 属性別】上位4項目

<性別>

・「自然災害のこと」では女性の方が、「経済的なこと」では男性の方が割合が5ポイント以上高い。

<年齢別>

・「病気や健康のこと（主に身体的なこと）」では、年齢が上がるほど割合が高くなる傾向があり、「70～79歳」「80歳以上」では、全体より15ポイント以上高い。

・「自然災害のこと」では「60～69歳」まで年齢が上がるほど割合が高くなる傾向があり、「60～69歳」が59.6%で全体より10ポイント以上高い。

<居住年数別>

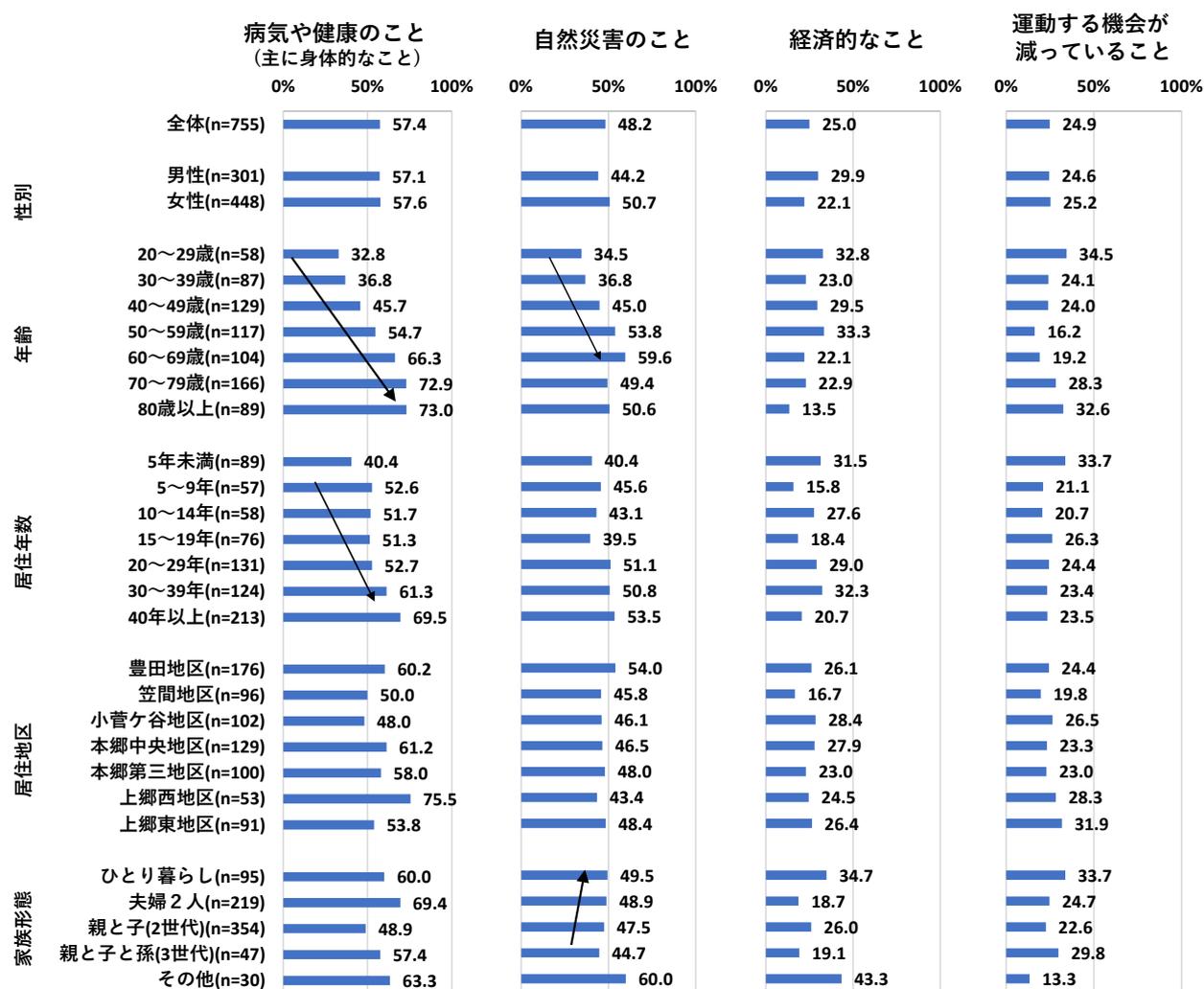
・「病気や健康のこと（主に身体的なこと）」では、居住年数が長いほど割合が高くなる傾向があり、「40年以上」が69.5%と全体より10ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「上郷西地区」では、「病気や健康のこと（主に身体的なこと）」の割合が75.5%と全体より10ポイント以上高い。

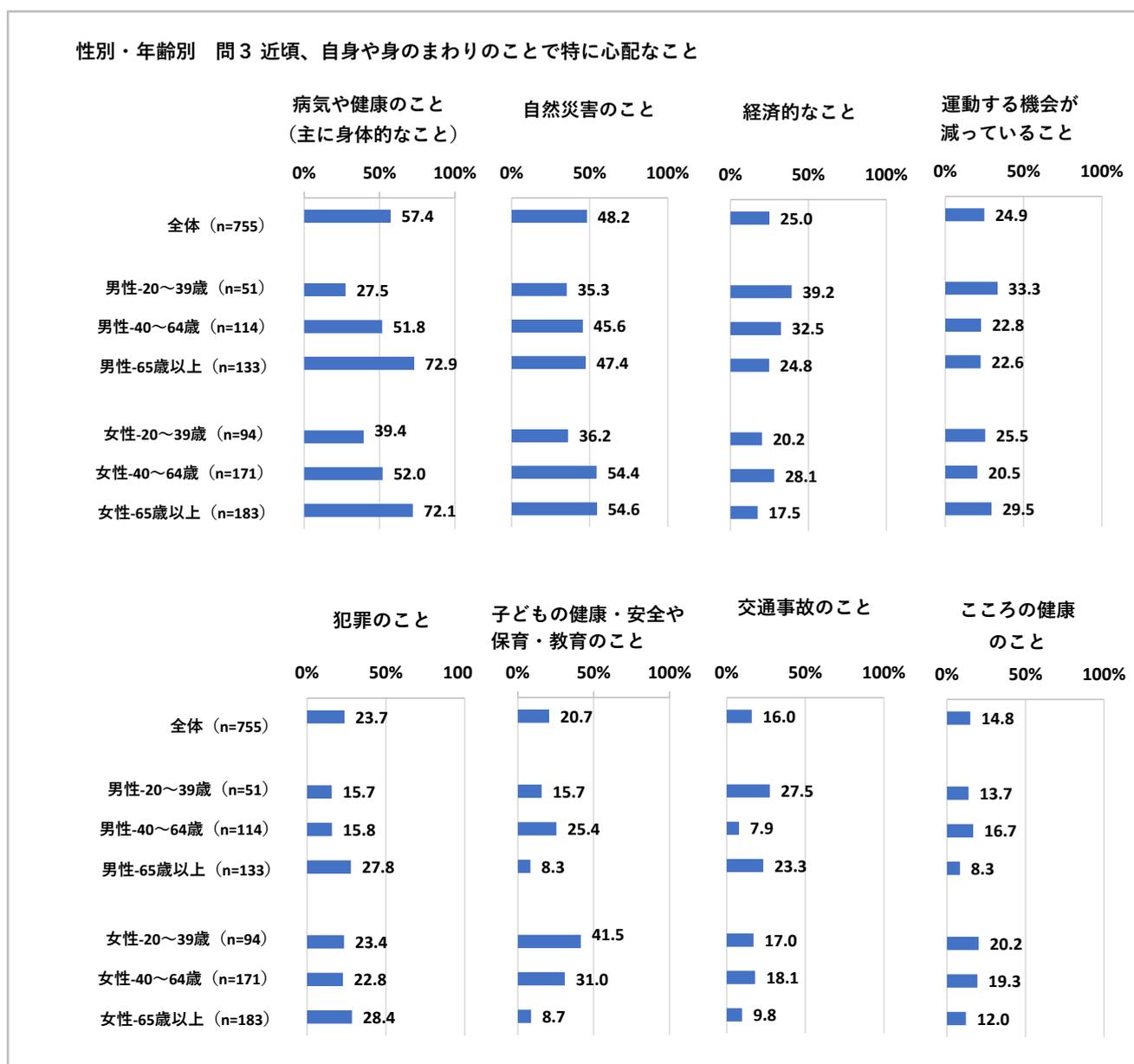
<家族形態別>

・「自然災害のこと」では家族の人数が少ないほど割合が高くなる傾向が見られる。



【身のまわりの心配なこと： 性別・年齢別】

- ・男性「20～39歳」では、「経済的なこと」「交通事故のこと」が全体の割合より10ポイント以上高い。
- ・女性「20～39歳」では、「子どもの健康・安全や保育・教育のこと」が全体の割合より20ポイント以上高い。
- ・男性「40～64歳」では、「経済的なこと」が全体の割合より5ポイント以上高い。
- ・女性「40～64歳」では、「自然災害のこと」「子どもの健康・安全や保育・教育のこと」が全体の割合より5ポイント以上高い。
- ・男女ともに「65歳以上」では、「病気や健康のこと（主に身体的なこと）」が全体の割合より10ポイント以上高い。

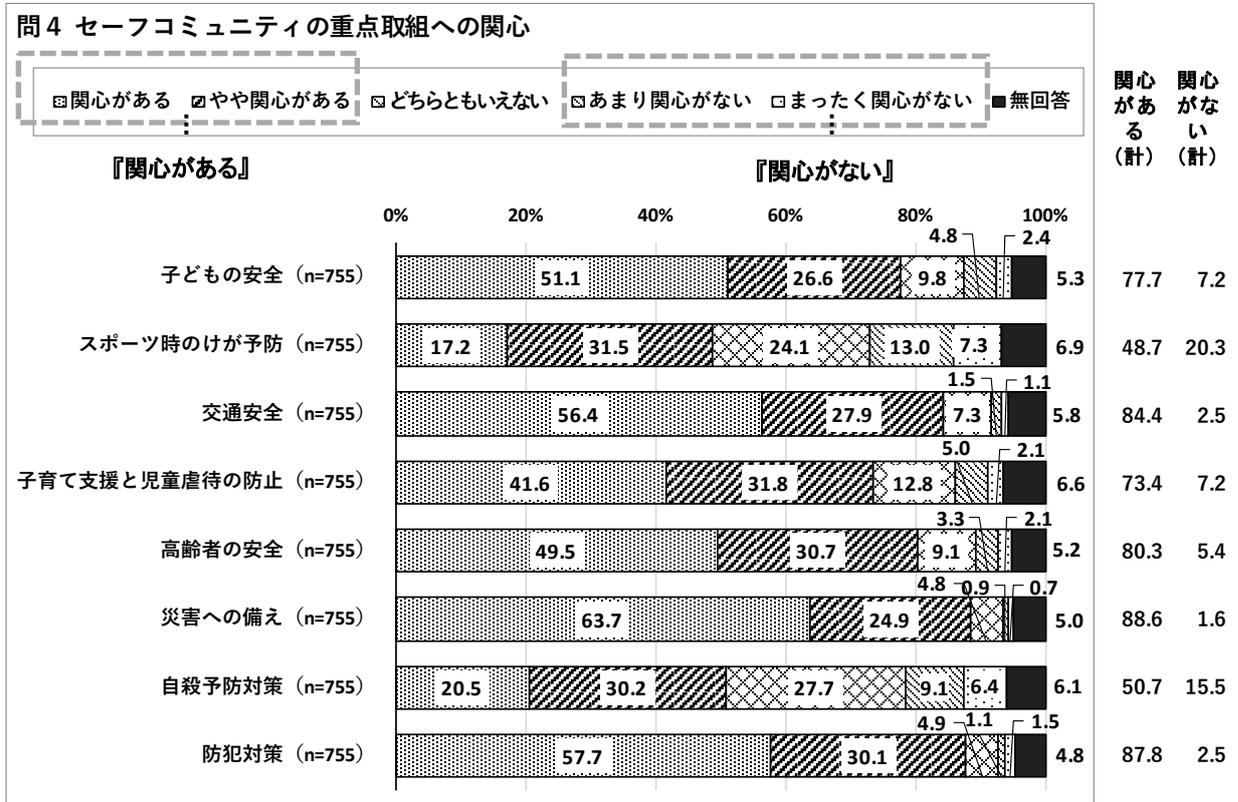


(4) セーフコミュニティの重点項目への関心

【セーフコミュニティの重点項目への関心】

<全体>

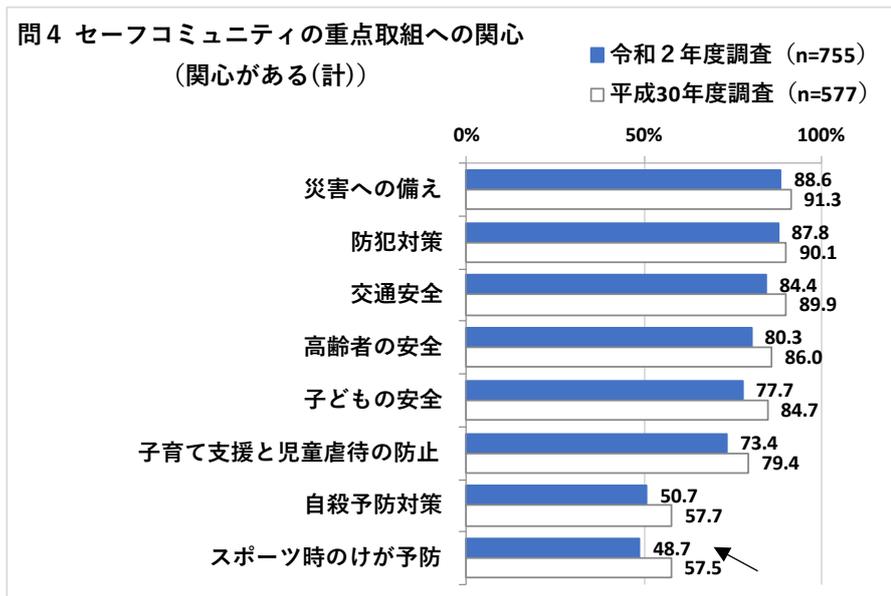
- ・「関心がある」「やや関心がある」を合わせた『関心がある』は、「災害への備え」「防犯対策」「交通安全」「高齢者の安全」で8割以上なのに対し、「スポーツ時のけが予防」では5割以下となっている。
- ・全ての項目において性別では、「男性」より「女性」の方が、「関心がある」割合が高い。中でも「子育て支援と児童虐待」「高齢者の安全」では、5ポイント以上高くなっている。



【セーフコミュニティの重点項目への関心： 時系列】

<平成30年度調査と比較>

- ・平成30年度と比較すると、『関心がある』割合は、全ての項目で減少しており、特に「スポーツ時のけが予防」で8.8ポイントと最も多い減少がみられる。



1 子どもの安全

【セーフコミュニティの重点項目への関心： 属性別】

<性別>

・「関心がある」と「やや関心がある」を合わせた『関心がある』割合は、「男性」より「女性」の方が5.7ポイント高い。

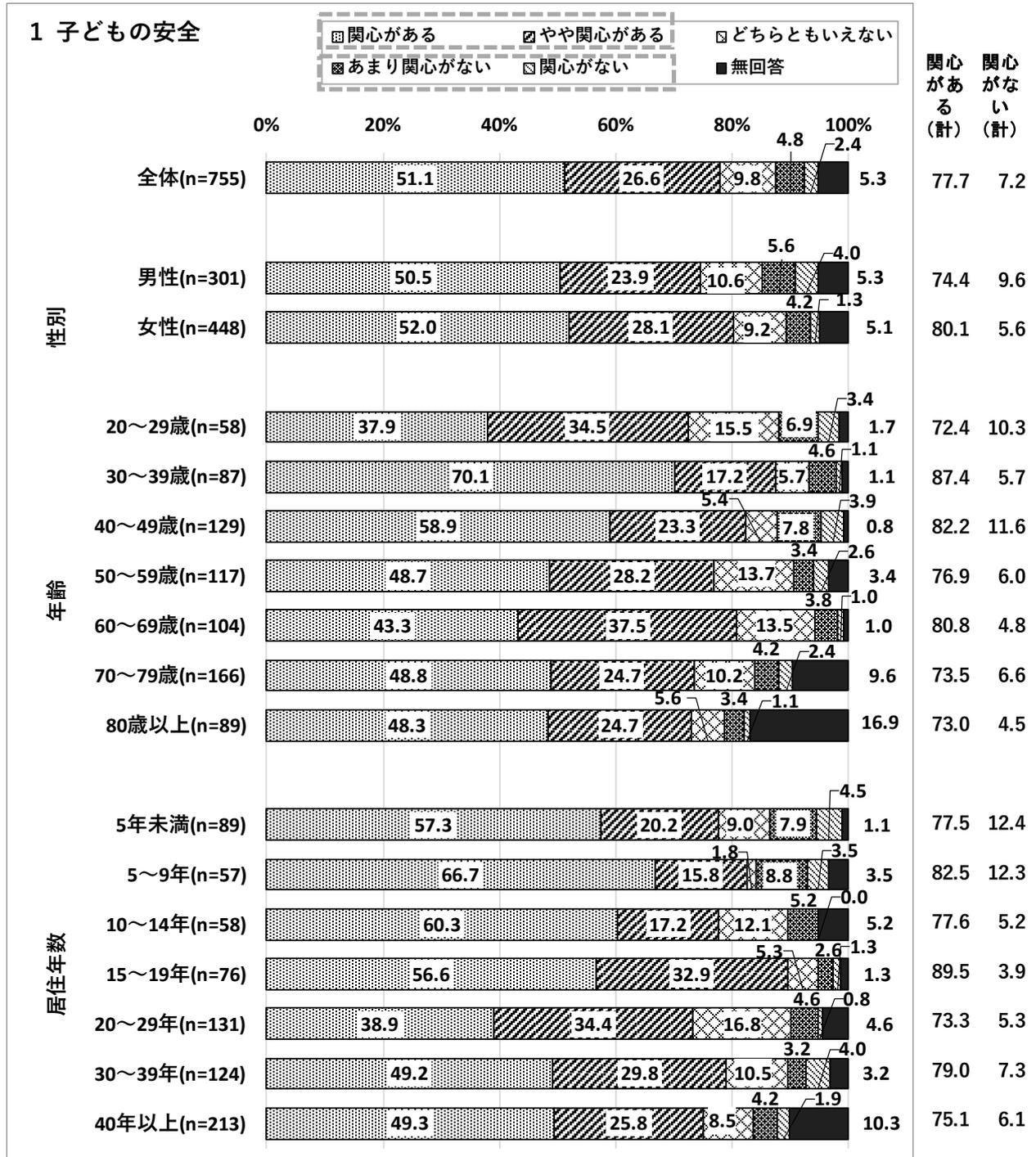
<年齢別>

・「30～39歳」では、「関心がある」の割合が全体より15ポイント以上高い。

<居住年数別>

・「5～9年」では、「関心がある」の割合が全体より10ポイント以上高い。

・「15～19年」では、「関心がある」と「やや関心がある」を合わせた『関心がある』の割合が全体より10ポイント以上高い。

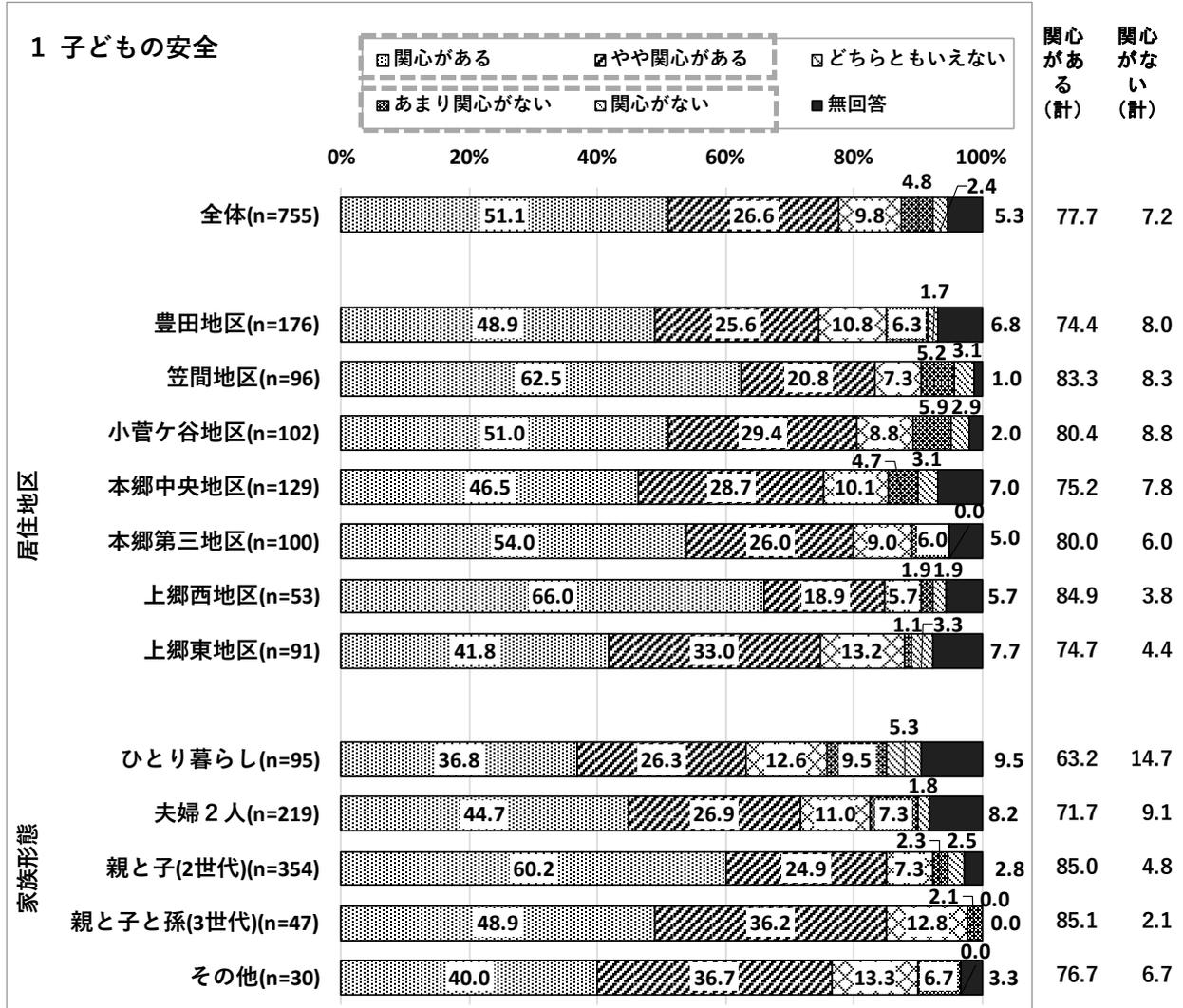


<居住地区別>

・「上郷西地区」「笠間地区」では、「関心がある」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「親と子(2世代)」では、「関心がある」の割合が全体より5ポイント以上高い。

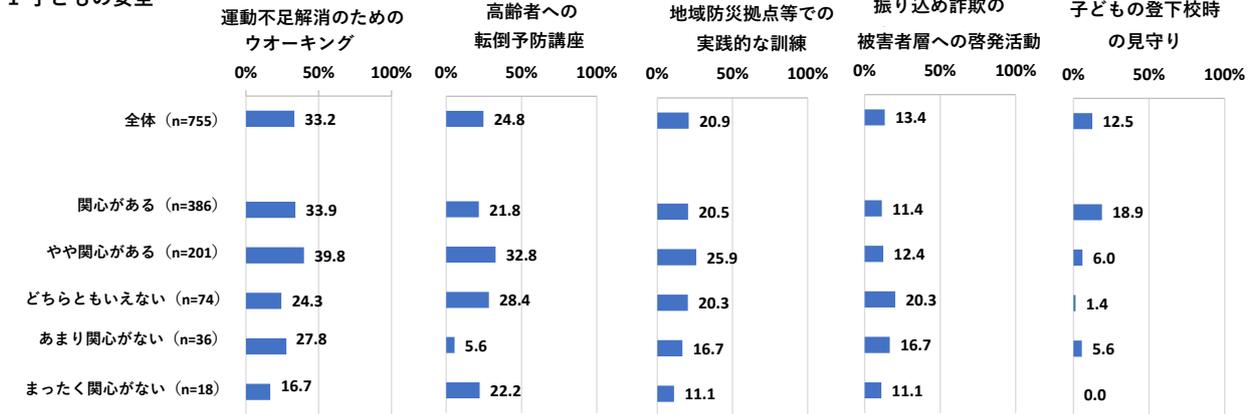


【セーフコミュニティの重点項目への関心：(7)今後参加したい取組との相関】

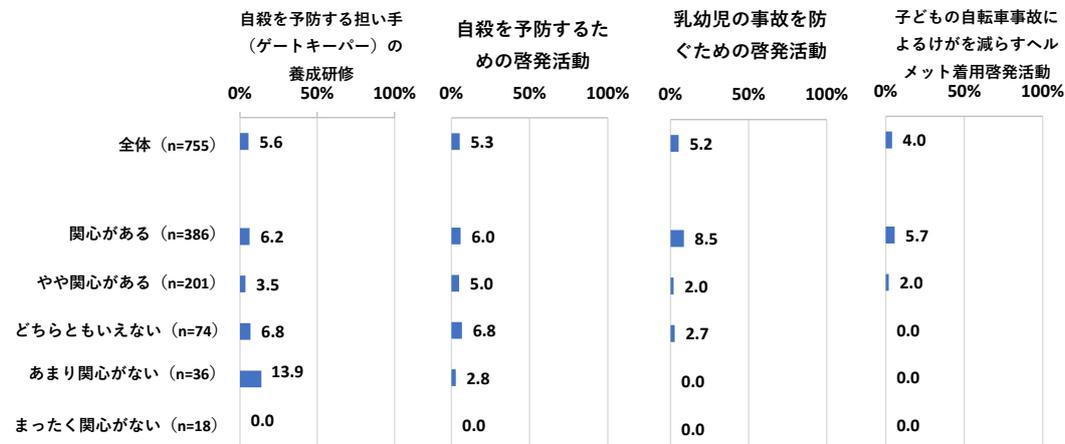
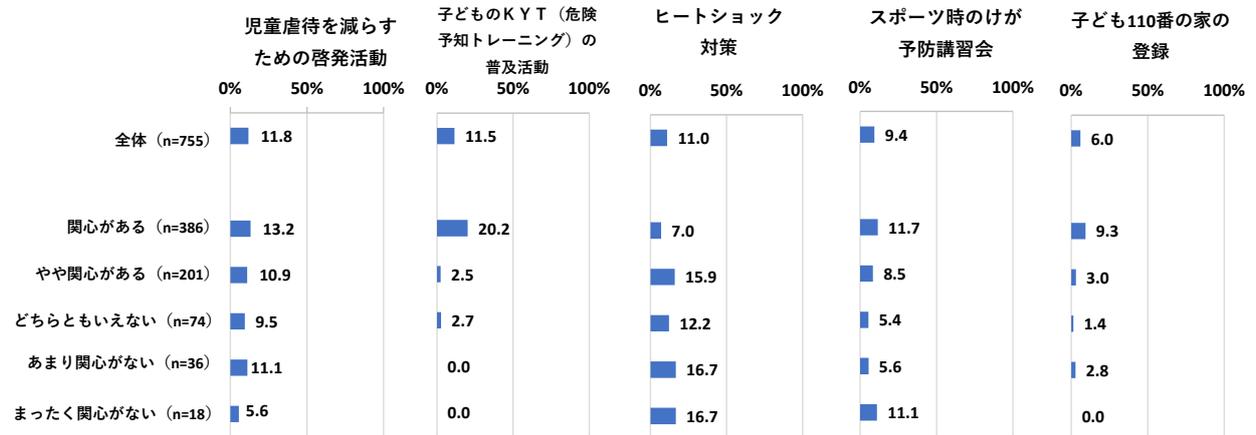
- ・『子どもの安全』について「関心がある」方は「子どものKYT（危険予知トレーニング）の普及活動」を今後参加したい取組に挙げる割合が全体より8.7ポイント高い。

今後参加したい取組

1 子どもの安全



子どもの安全への関心



2 スポーツ時のけが予防

<性別>

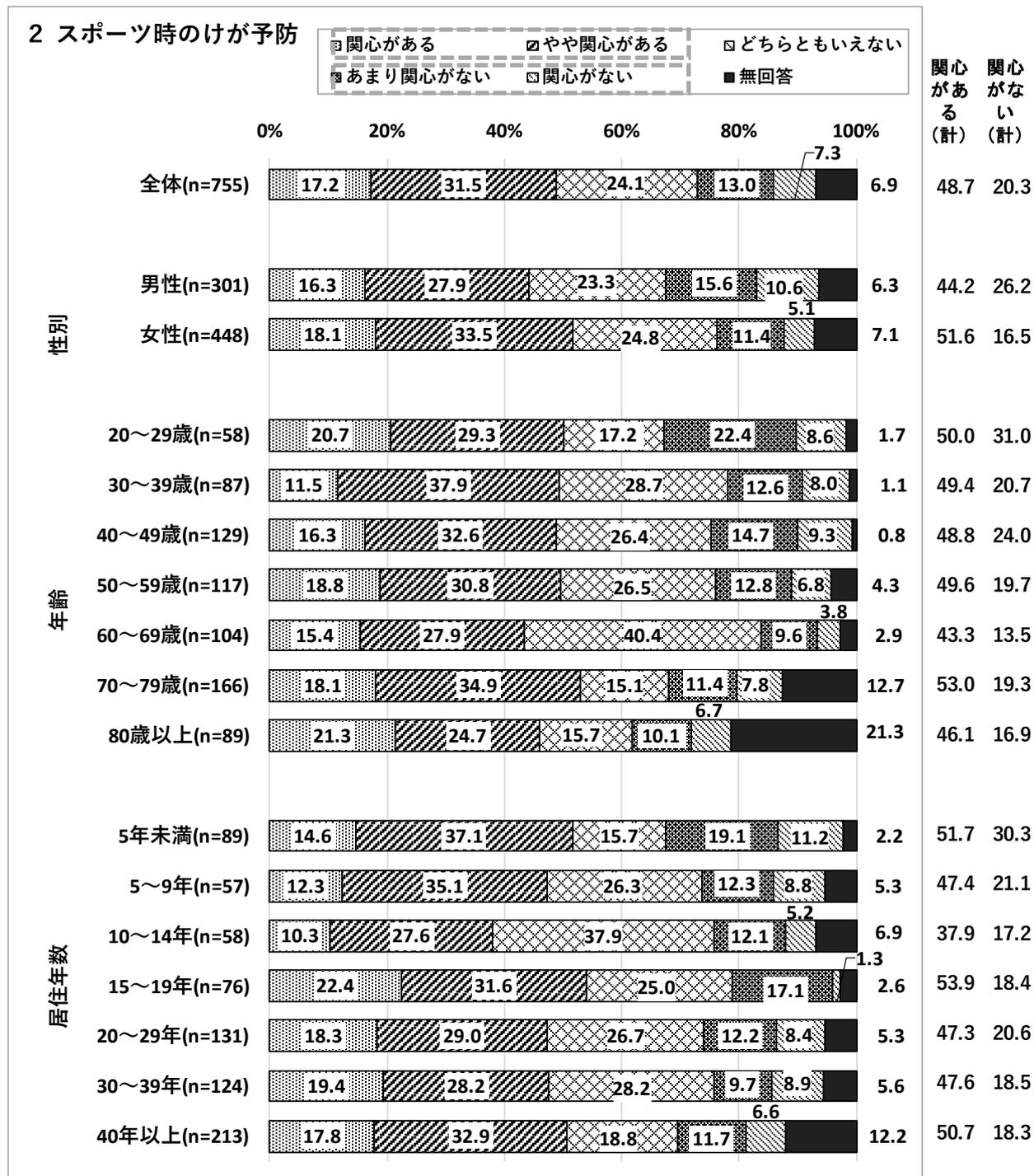
・「関心がある」と「やや関心がある」を合わせた『関心がある』割合は、「男性」より「女性」の方が7.4ポイント高い。

<年齢別>

・年齢別には、大きな差は見られない。

<居住年数別>

・「15～19年」では「関心がある」の割合が全体より5ポイント以上高い。

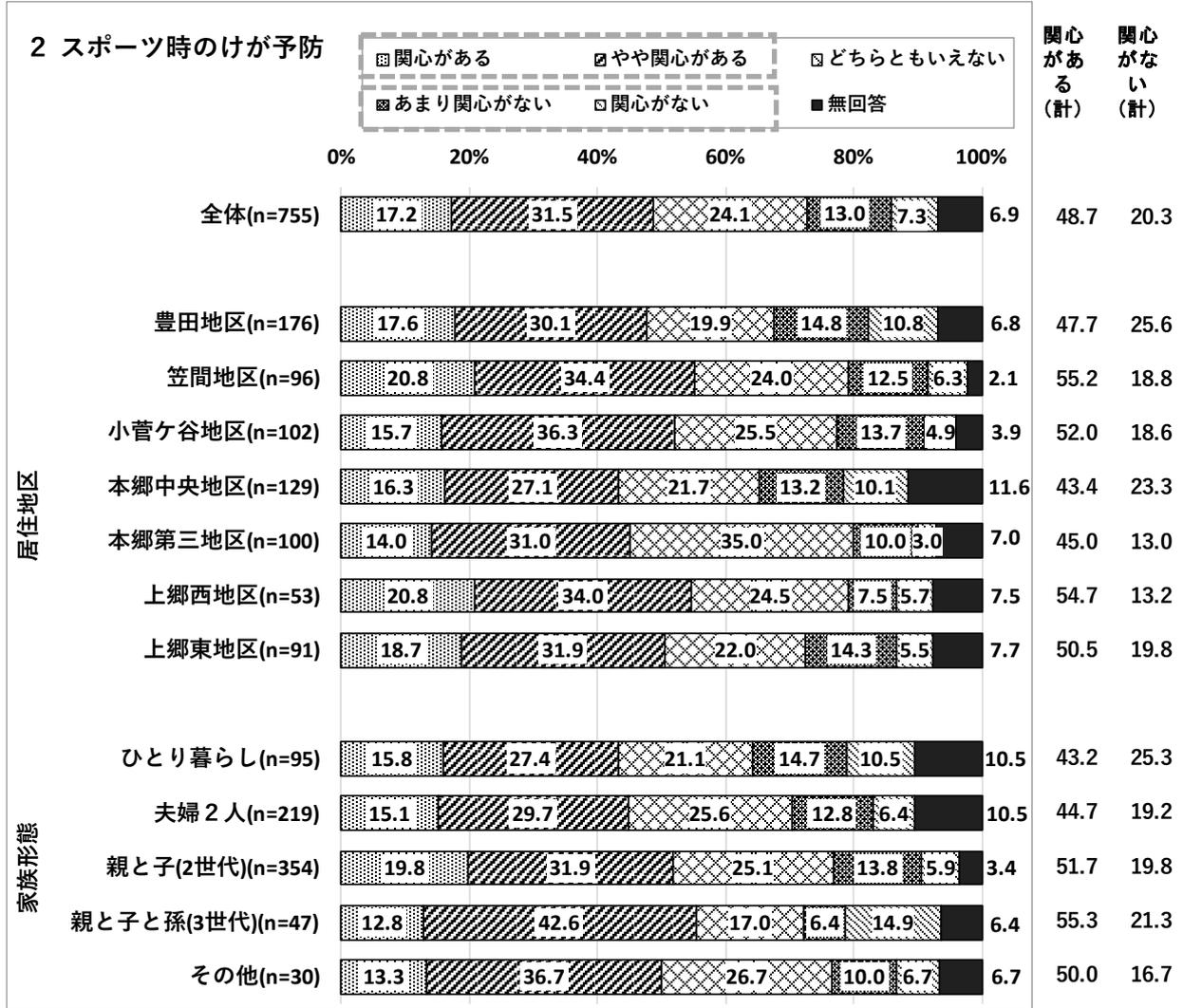


<居住地区別>

・「笠間地区」「上郷西地区」では、「関心がある」と「やや関心がある」を合わせた『関心がある』の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「親と子と孫(3世代)」では、「関心がある」と「やや関心がある」を合わせた『関心がある』の割合が全体より5ポイント以上高い。

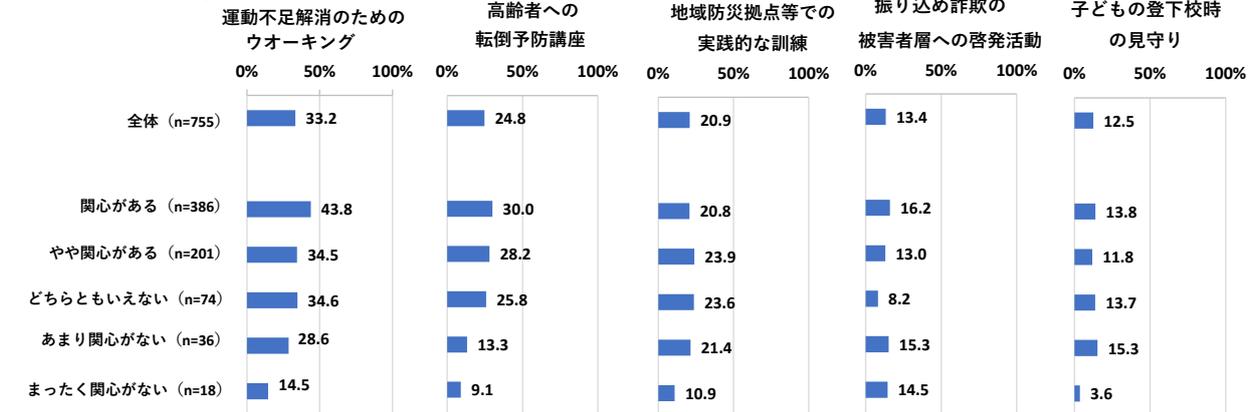


【セーフコミュニティの重点項目への関心：(7)今後参加したい取組との相関】

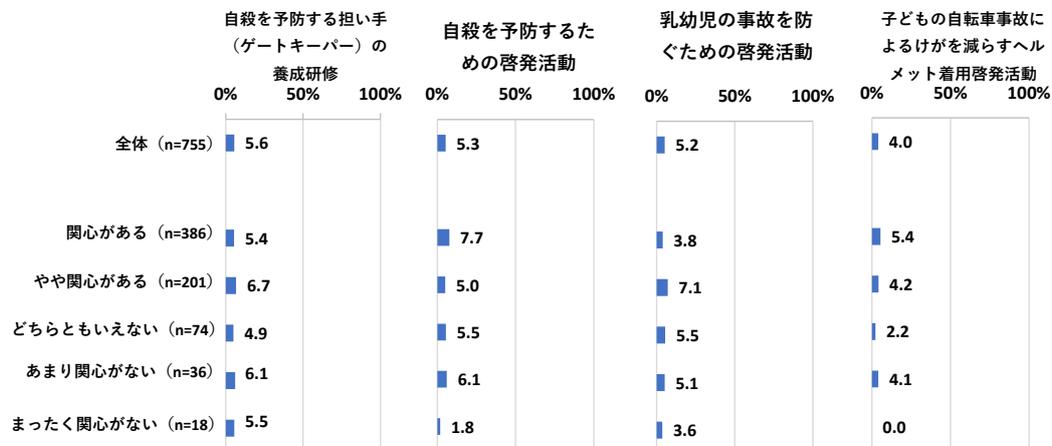
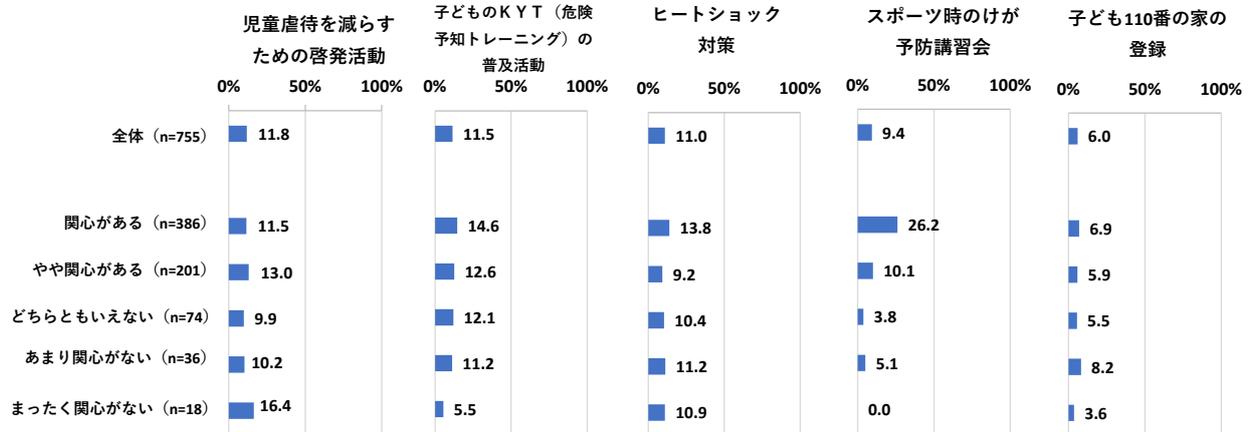
- ・『スポーツ時のけが予防』について「関心がある」方は「スポーツ時のけが予防講習会」「運動不足解消のためのウォーキング」を今後参加したい取組に挙げる割合が全体より、それぞれ16.8ポイント、10.6ポイント高い。

今後参加したい取組

2 スポーツ時のけが予防



スポーツ時のけが予防への関心



3 交通安全

<性別>

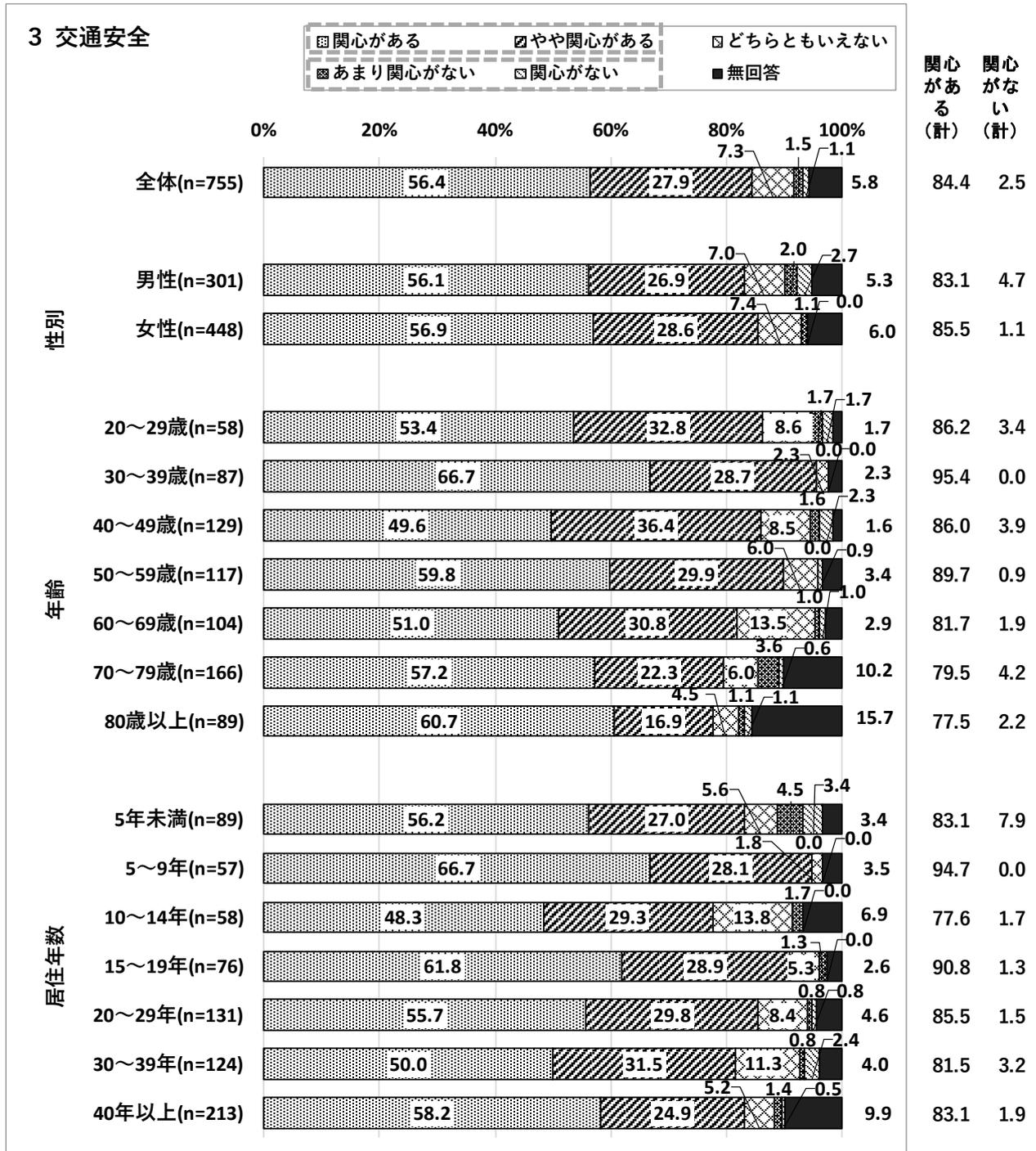
・性別には、大きな差はみられない。

<年齢別>

・「30～39歳」では、「関心がある」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住年数別>

・「5～9年」では、「関心がある」の割合が全体より10ポイント以上高い。

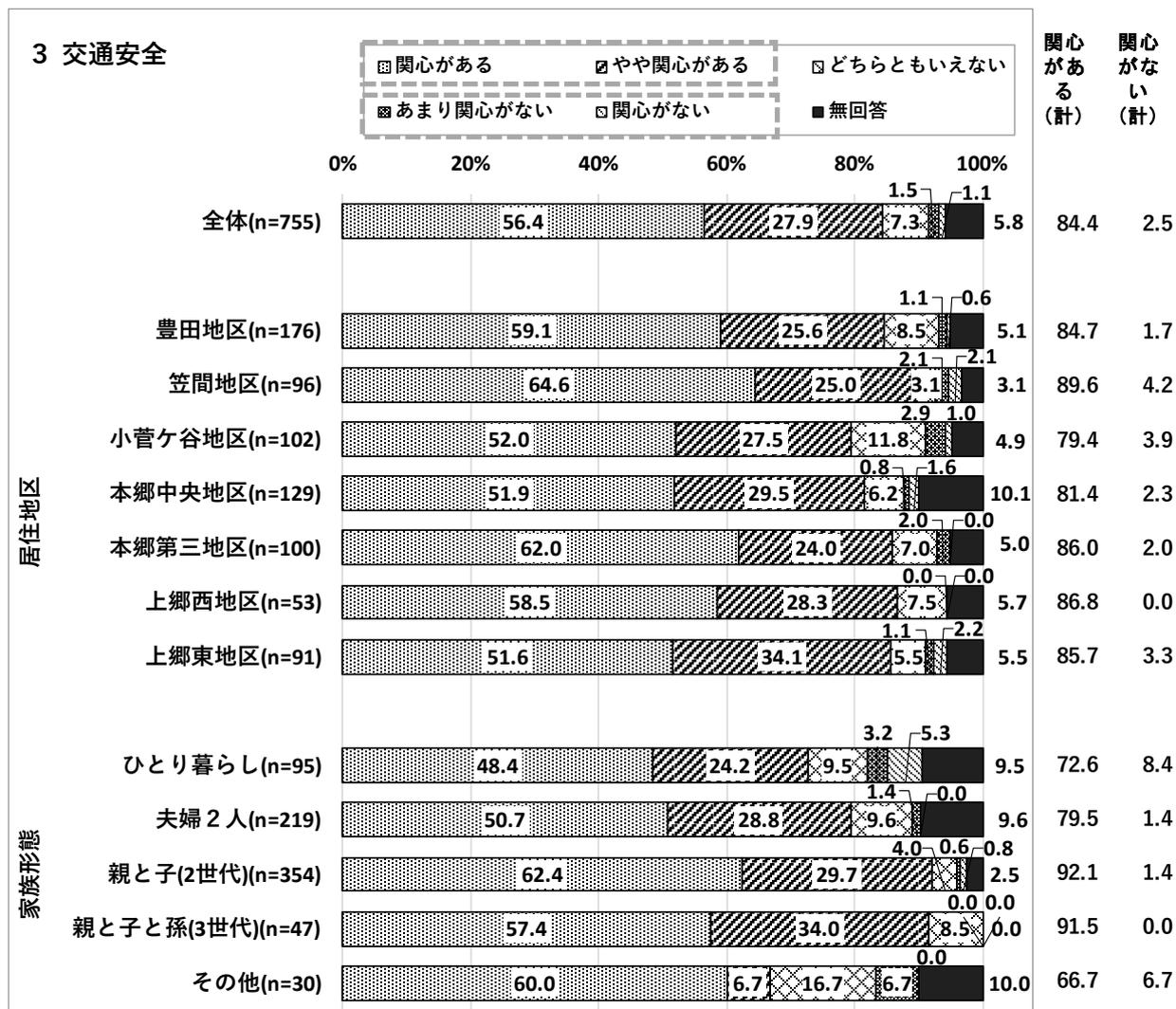


<居住地区別>

・「笠間地区」「本郷第三地区」では、「関心がある」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「親と子（2世代）」では、「関心がある」の割合が全体より5ポイント以上高い。

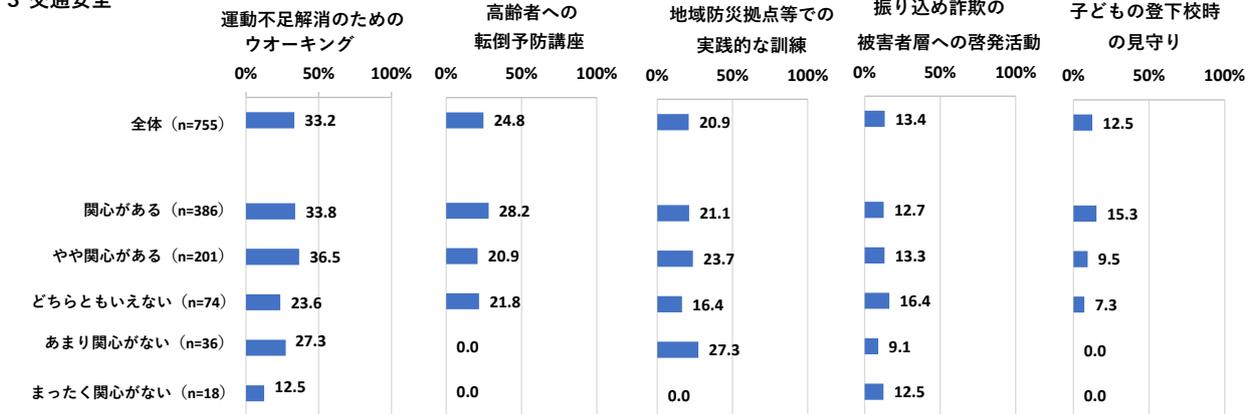


【セーフコミュニティの重点項目への関心：(7)今後参加したい取組との相関】

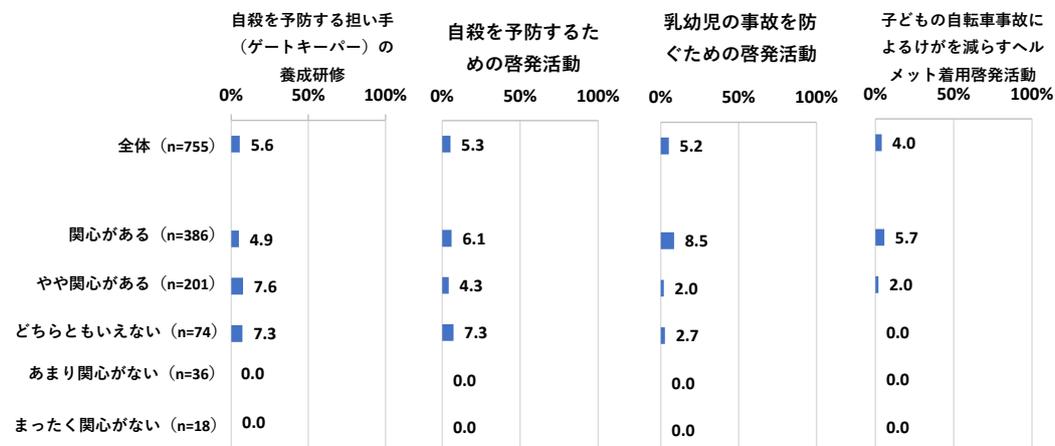
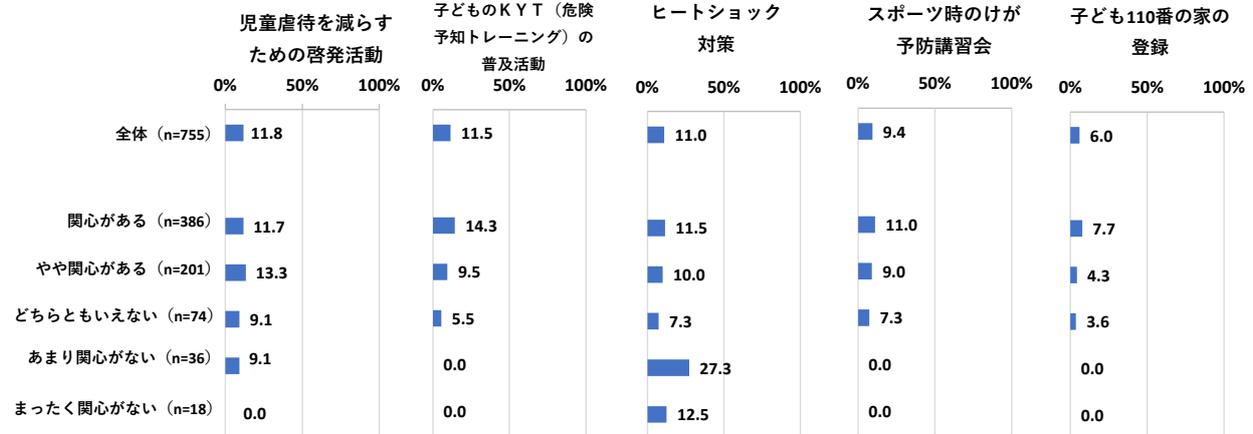
・『交通安全』について関心がある方ほど「高齢者への転倒予防講座」「子どもの登下校時の見守り」「子どものKYT（危険予知トレーニング）の普及活動」を今後参加したい取組に挙げる割合が比較的高い傾向が見られる。

3 交通安全

今後参加したい取組



交通安全への関心



4 子育て支援と児童虐待

<性別>

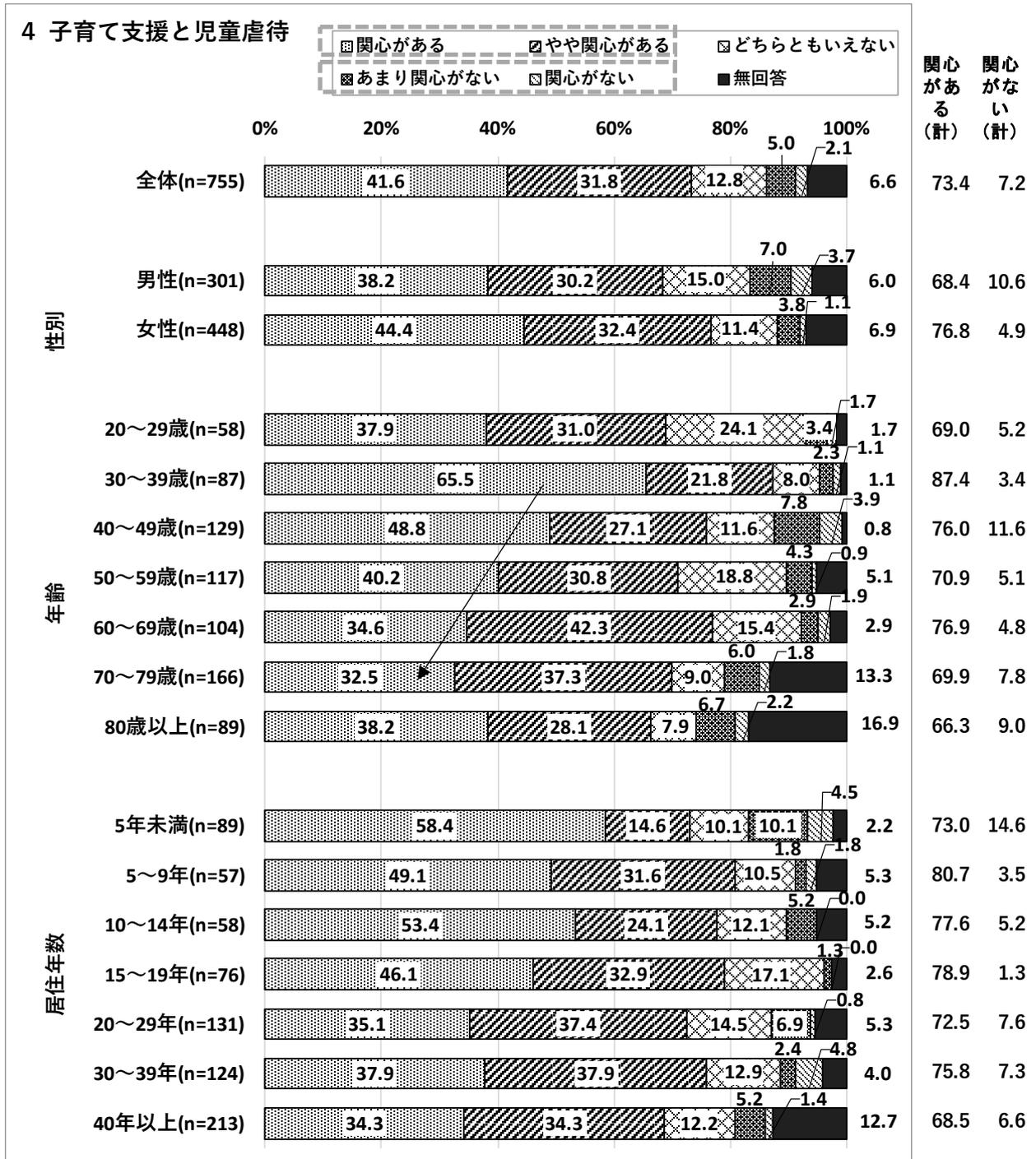
・「関心がある」の割合は、「男性」より「女性」の方が6.2ポイント高い。

<年齢別>

・「30歳から39歳」をピークに「関心がある」の割合は年齢が上がるほど低くなる傾向が見られる。

<居住年数別>

・「10～14年」をピークに「関心がある」の割合は居住年数が長くなるほど低くなる傾向が見られる。

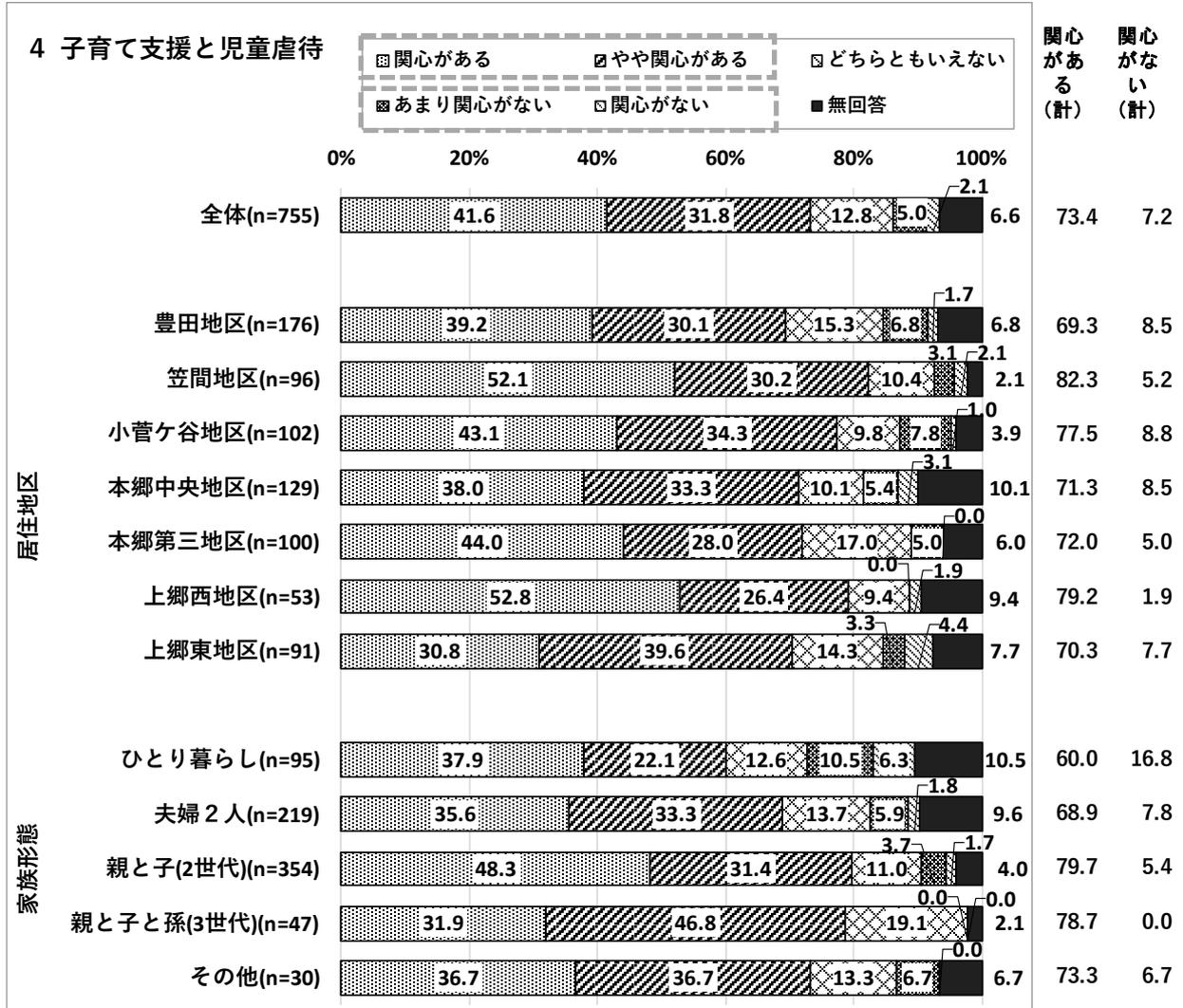


<居住地区別>

・「笠間地区」「上郷西地区」では、「関心がある」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「親と子(2世代)」では、「関心がある」の割合が全体より5ポイント以上高い。

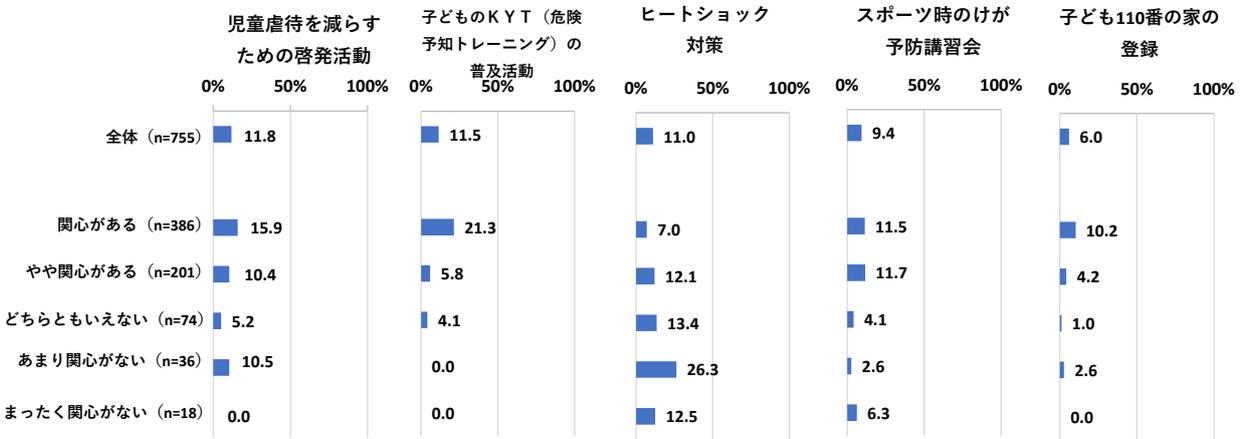
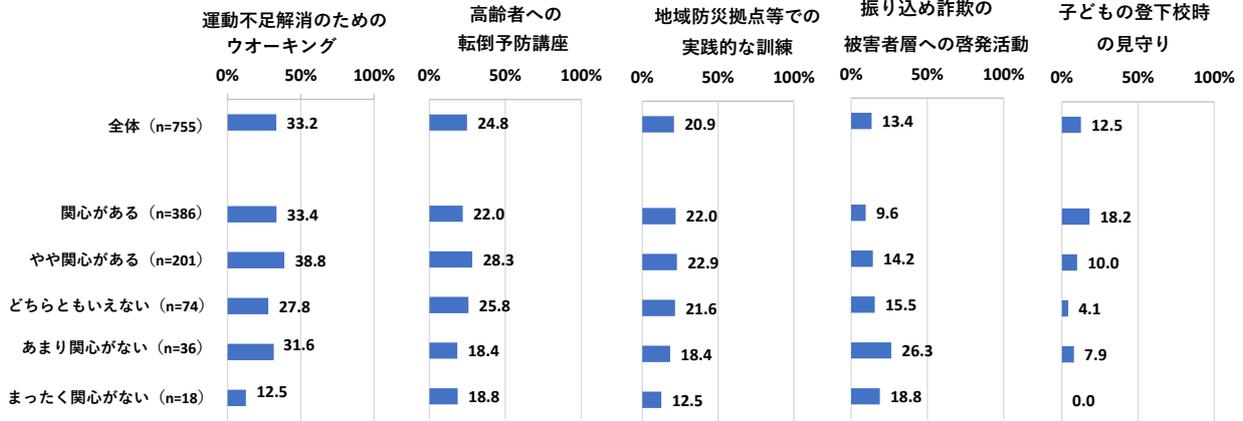


【セーフコミュニティの重点項目への関心：(7)今後参加したい取組との相関】

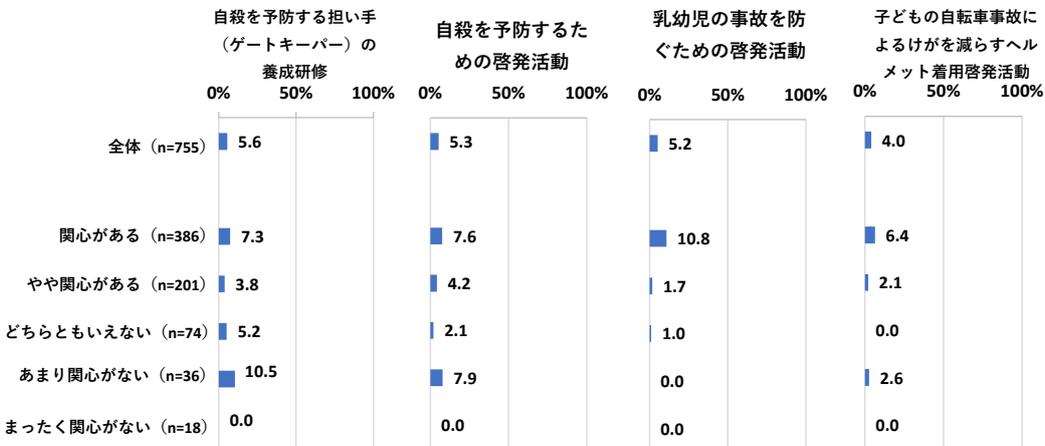
- ・『子育て支援と児童虐待』について「関心がある」方は「子どものKYT（危険予知トレーニング）の普及活動」「子どもの登下校時の見守り」「乳幼児の事故を防ぐための啓発活動」を今後参加したい取組に挙げる割合が全体より5ポイント以上高い。

今後参加したい取組

4 子育て支援と児童虐待の防止



子育て支援と児童虐待の防止への関心



5 高齢者の安全

<性別>

・「関心がある」の割合は、「男性」より「女性」の方が5.3ポイント高い。

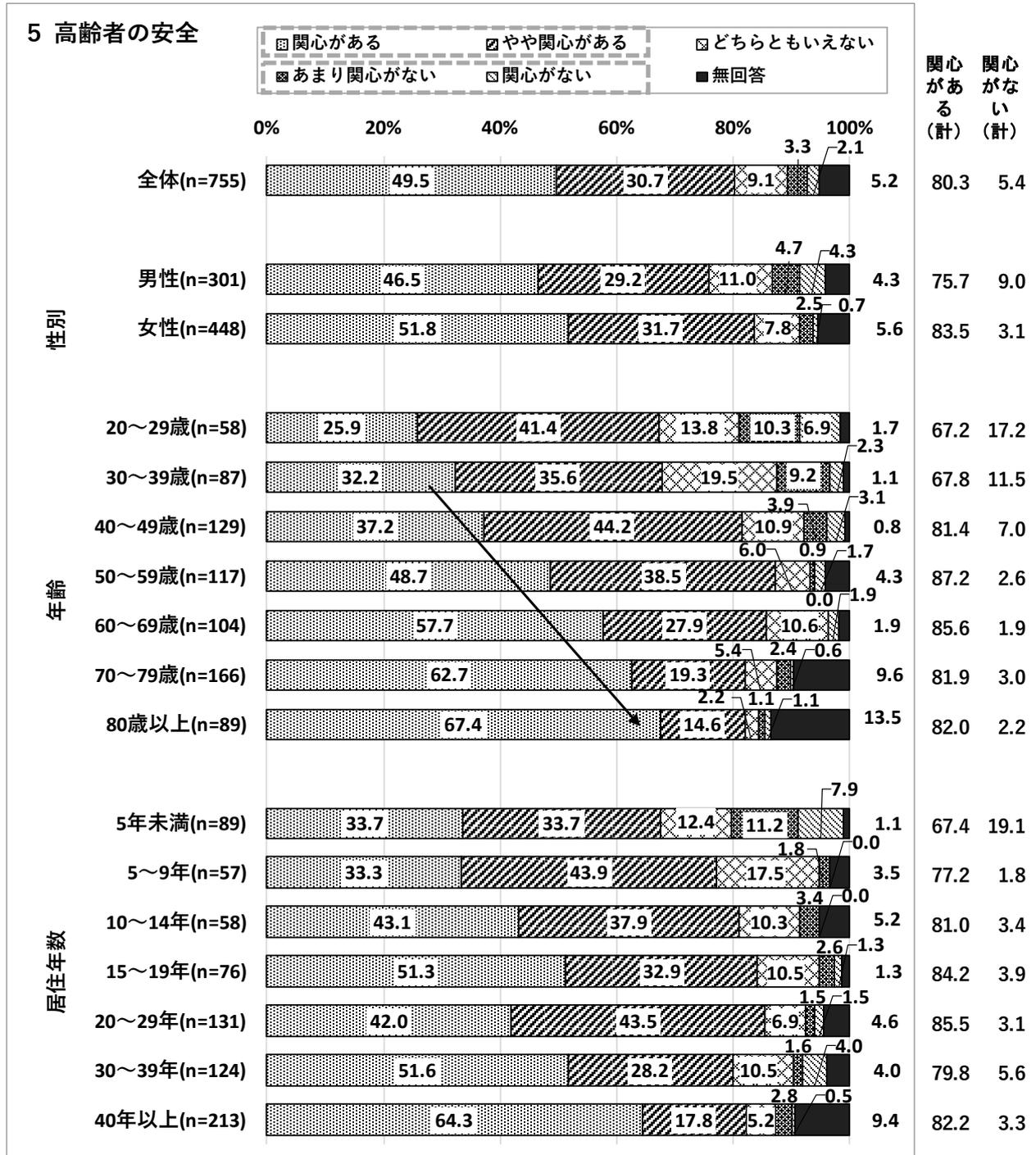
<年齢別>

・「関心がある」の割合は、年齢が上がるほど高くなっている。

・「70～79歳」「80歳以上」では、「関心がある」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住年数別>

・「関心がある」の割合は居住年数が長くなるほど高くなる傾向が見られる。

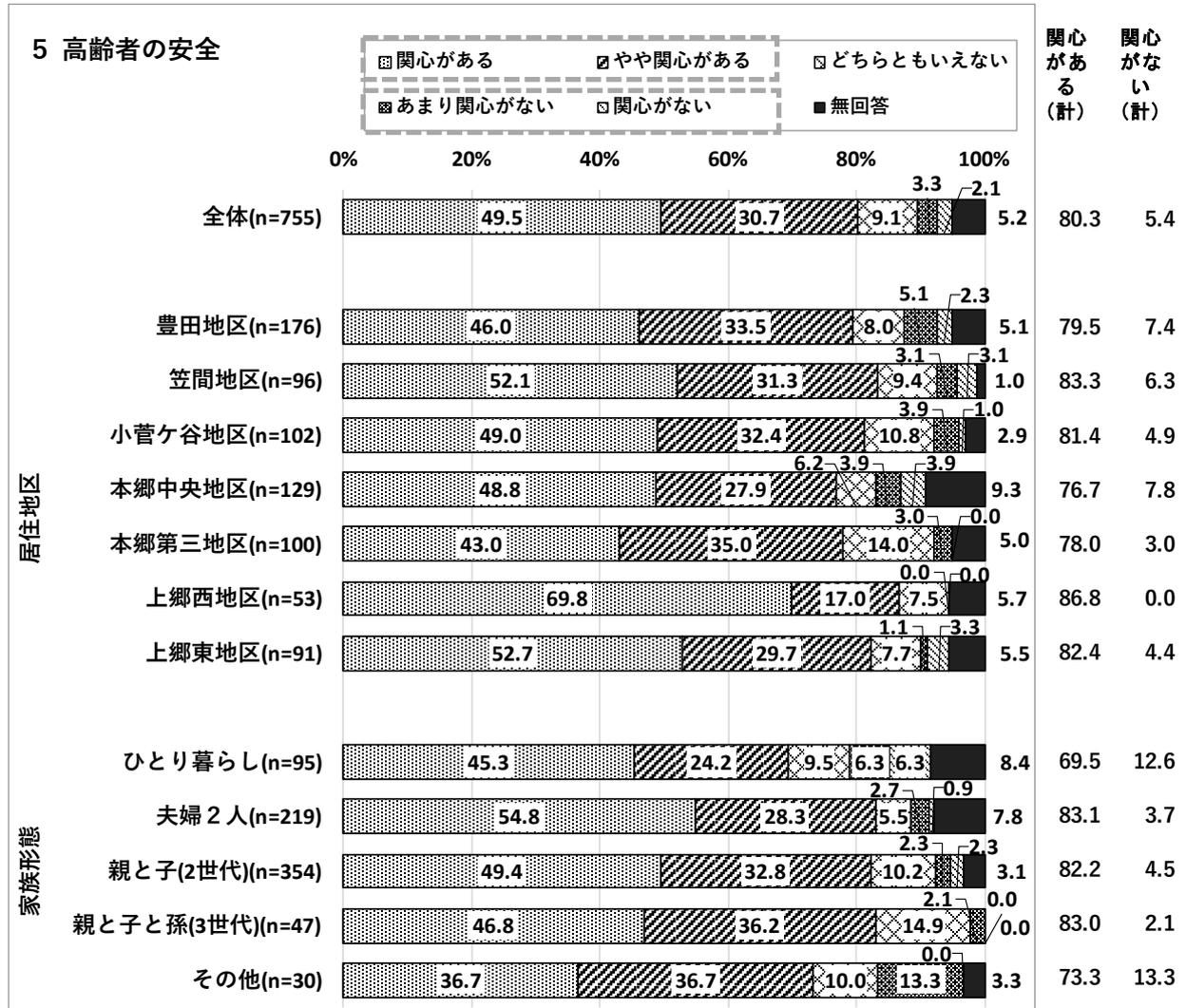


<居住地区別>

・「上郷西地区」では、「関心がある」の割合が全体より 20 ポイント以上高い。

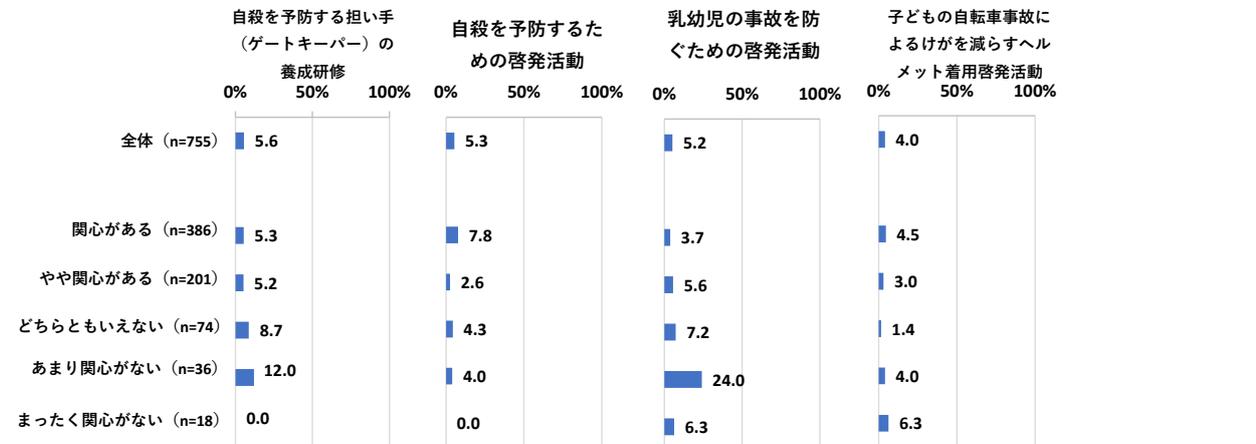
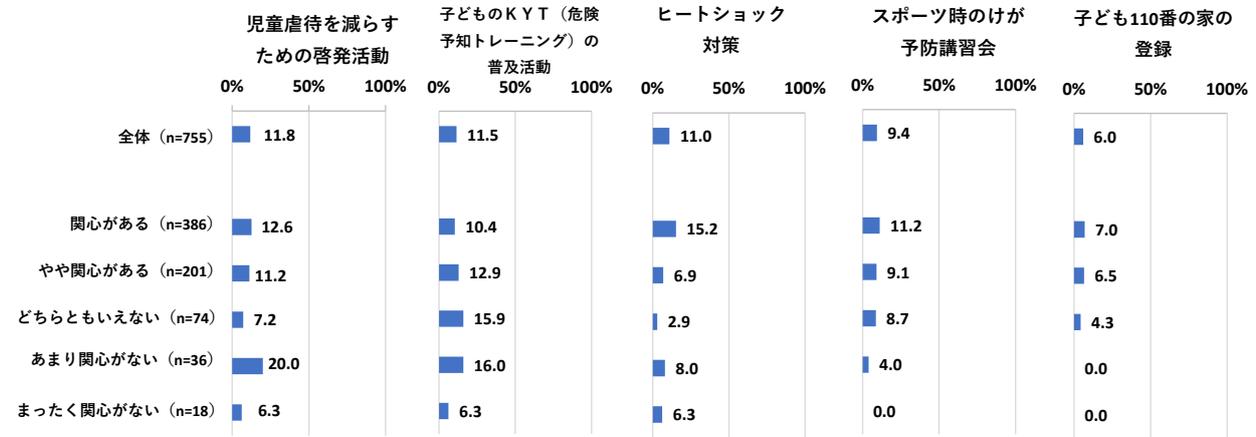
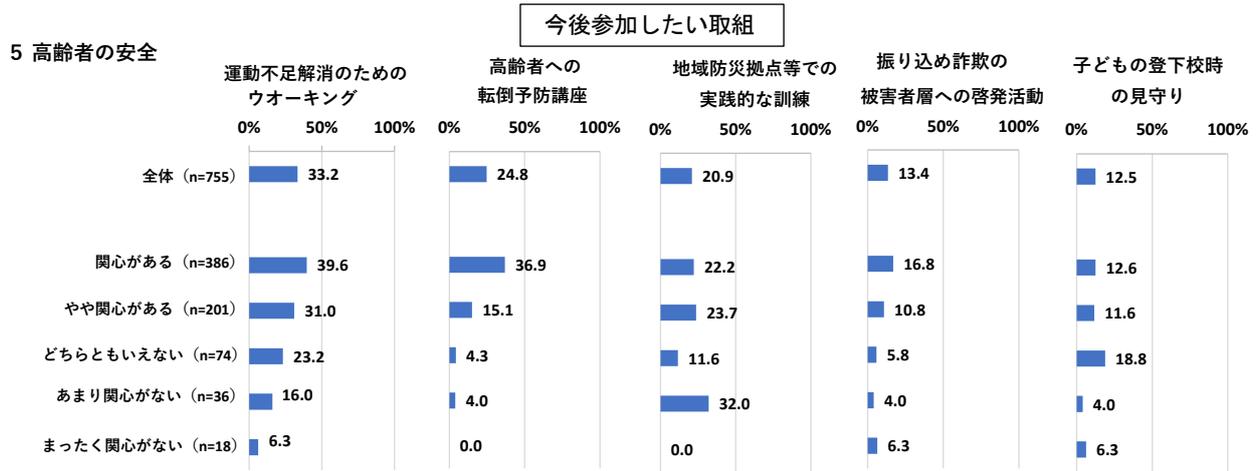
<家族形態別>

・「夫婦 2 人」では、「関心がある」の割合が全体より 5 ポイント以上高い。



【セーフコミュニティの重点項目への関心：(7)今後参加したい取組との相関】

- ・『高齢者の安全』について「関心がある」方は「高齢者への転倒予防講座」を今後参加したい取組に挙げる割合が全体より10ポイント以上、「運動不足解消のためのウォーキング」「ヒートショック対策」では5ポイント程度高くなっている。



高齢者の安全への関心

6 災害への備え

<性別>

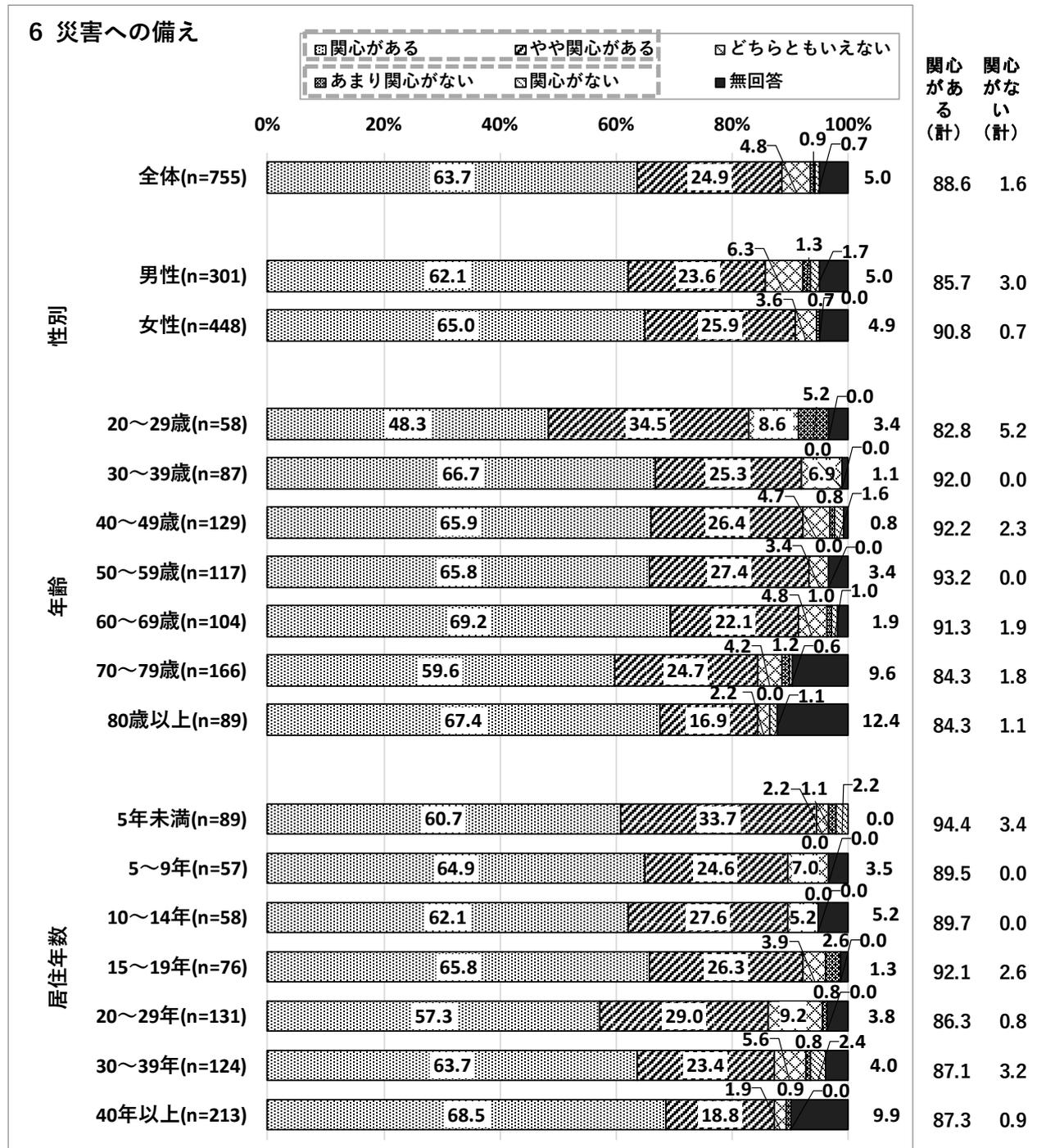
・「関心がある」と「やや関心がある」を合わせた『関心がある』の割合は、「男性」より「女性」の方が5.1ポイント高い。

<年齢別>

・「60～69歳」では、「関心がある」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住年数別>

・居住年数別には、大きな差は見られない。

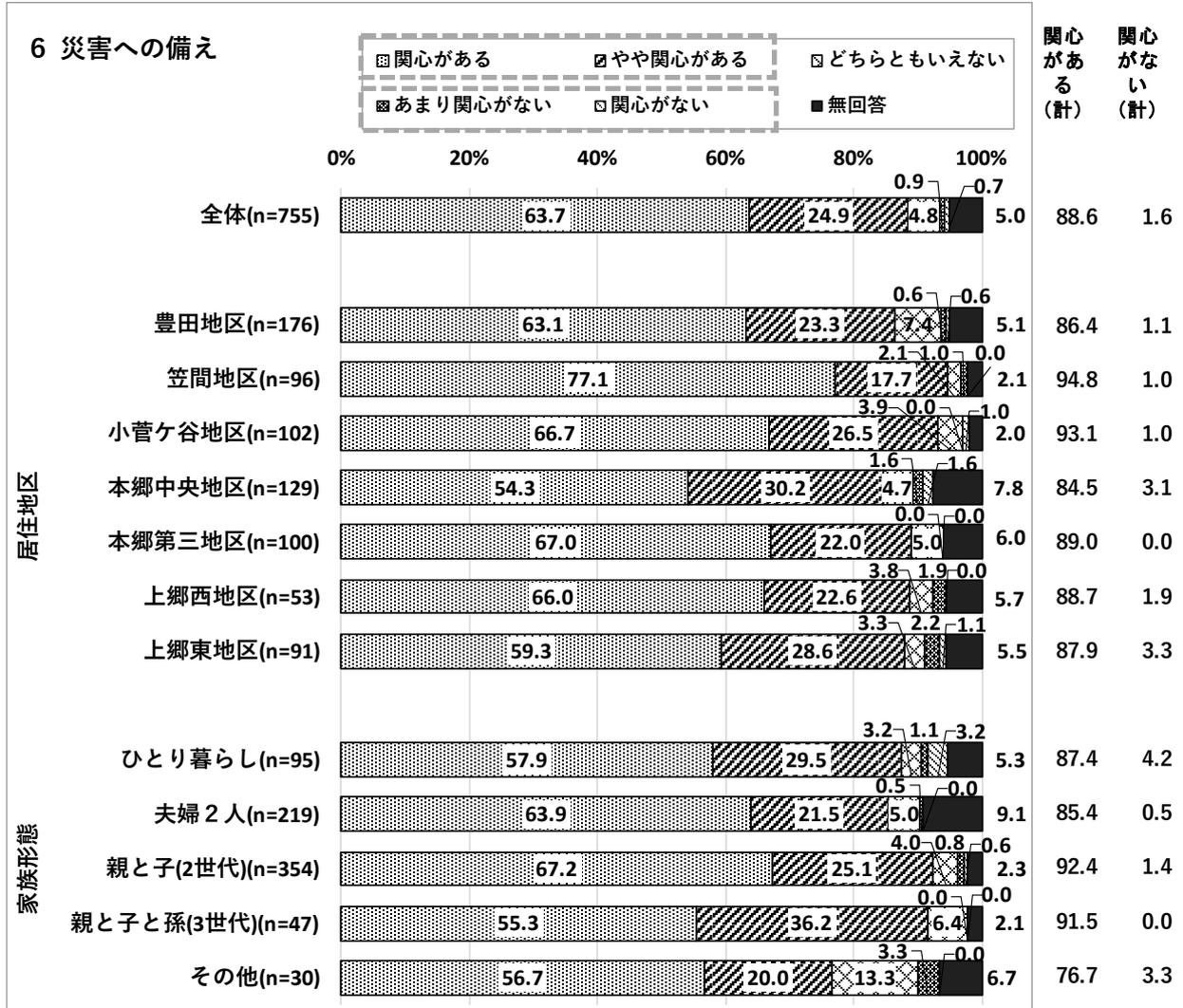


<居住地区別>

・「笠間地区」では、「関心がある」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<家族形態別>

・家族形態別には、大きな差はみられない。



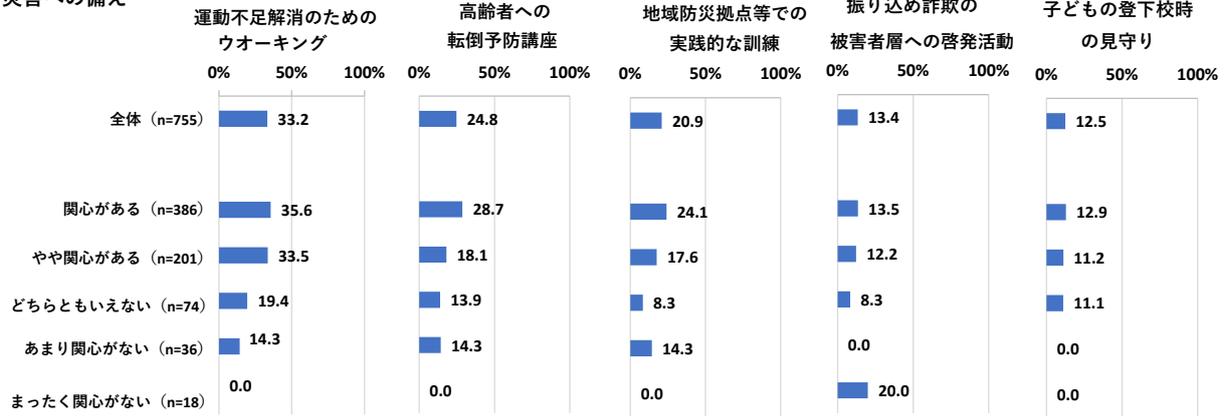
Ⅲ 集計分析結果 (4)セーフコミュニティの重点項目への関心

【セーフコミュニティの重点項目への関心：(7)今後参加したい取組との相関】

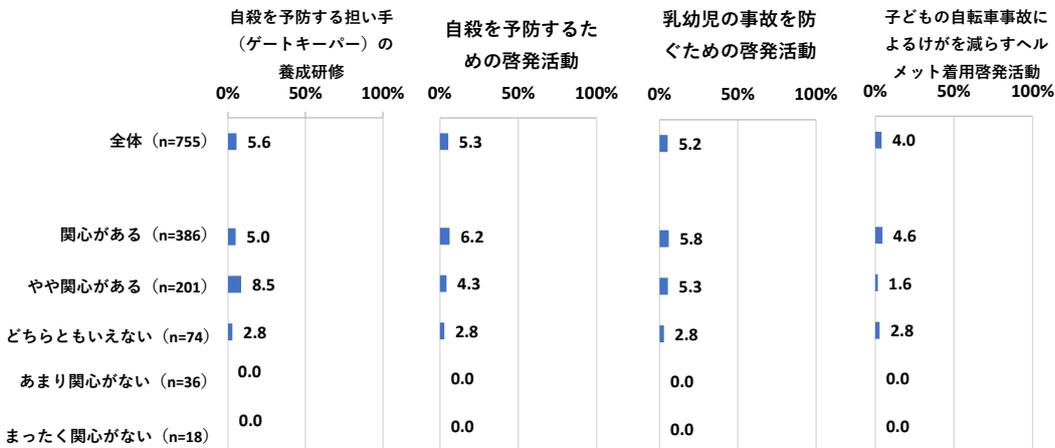
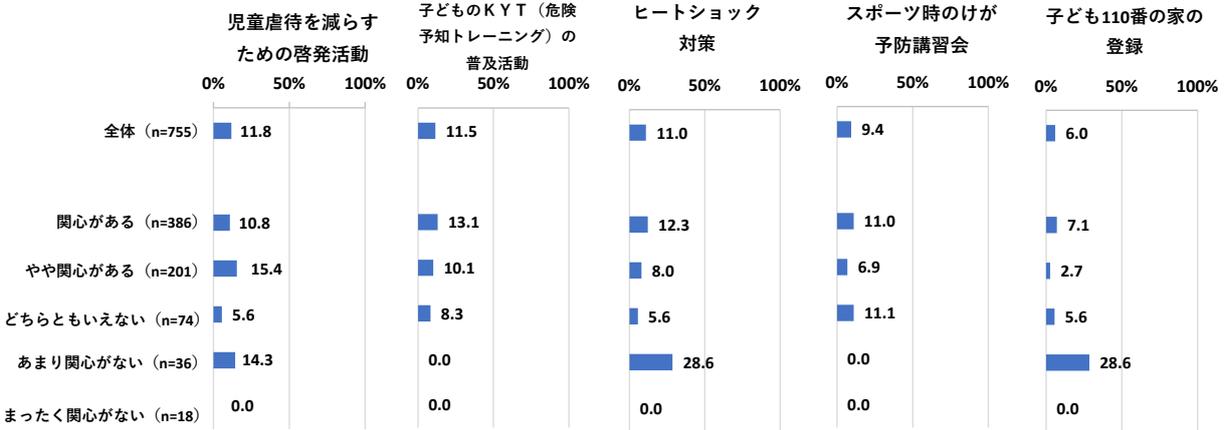
- ・『災害への備え』について関心が高い方ほど「高齢者への転倒予防講座」「地域防災拠点等での実践的な訓練」を今後参加したい取組に挙げる割合が比較的高い傾向が見られる。

今後参加したい取組

6 災害への備え



災害への備えへの関心



7 自殺予防対策

<性別>

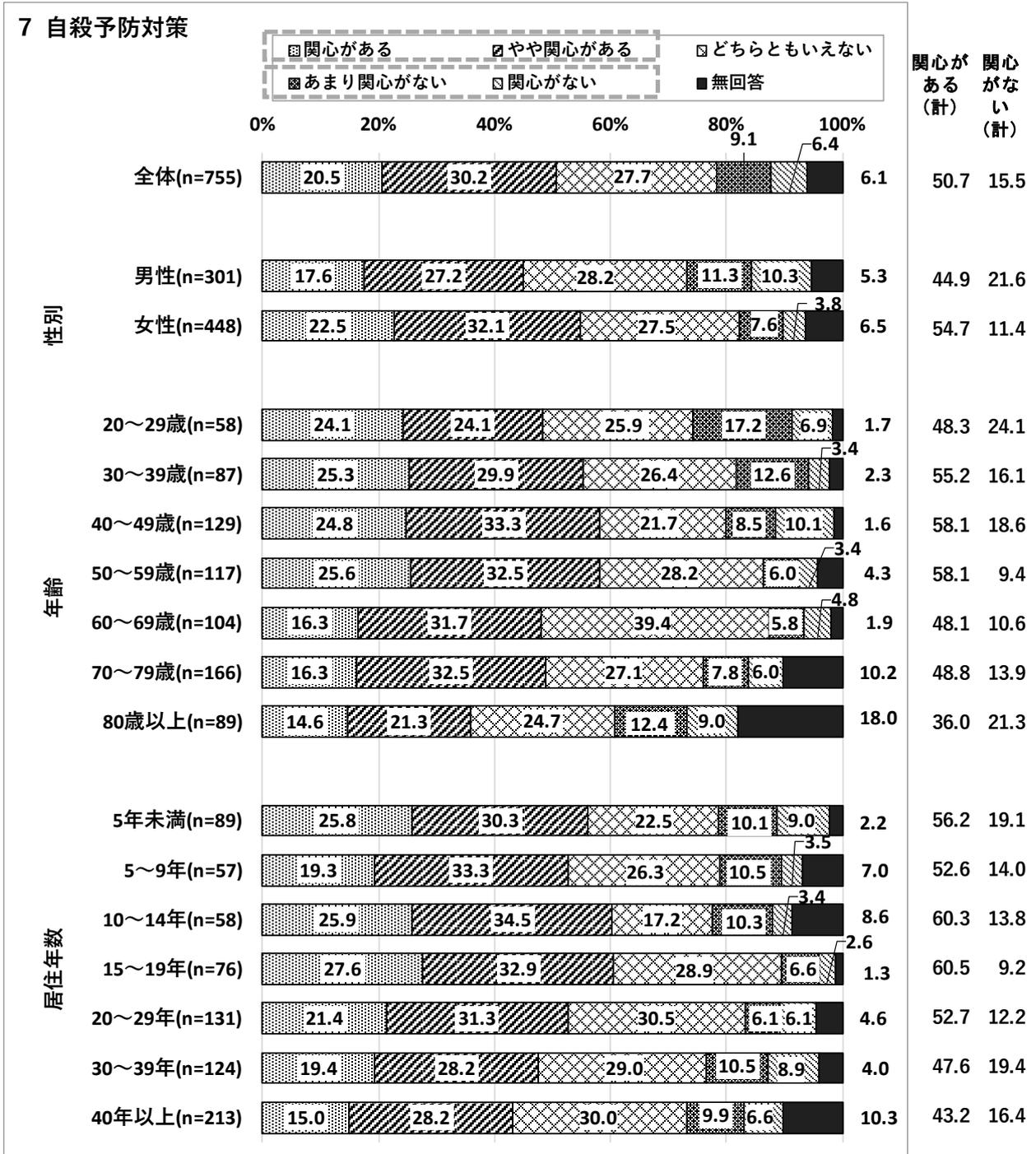
・「関心がある」の割合は、「男性」より「女性」の方が4.9ポイント高い。

<年齢別>

・「50～59歳」では、「関心がある」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住年数別>

・「15～19年」では、「関心がある」の割合が全体より5ポイント以上高い。

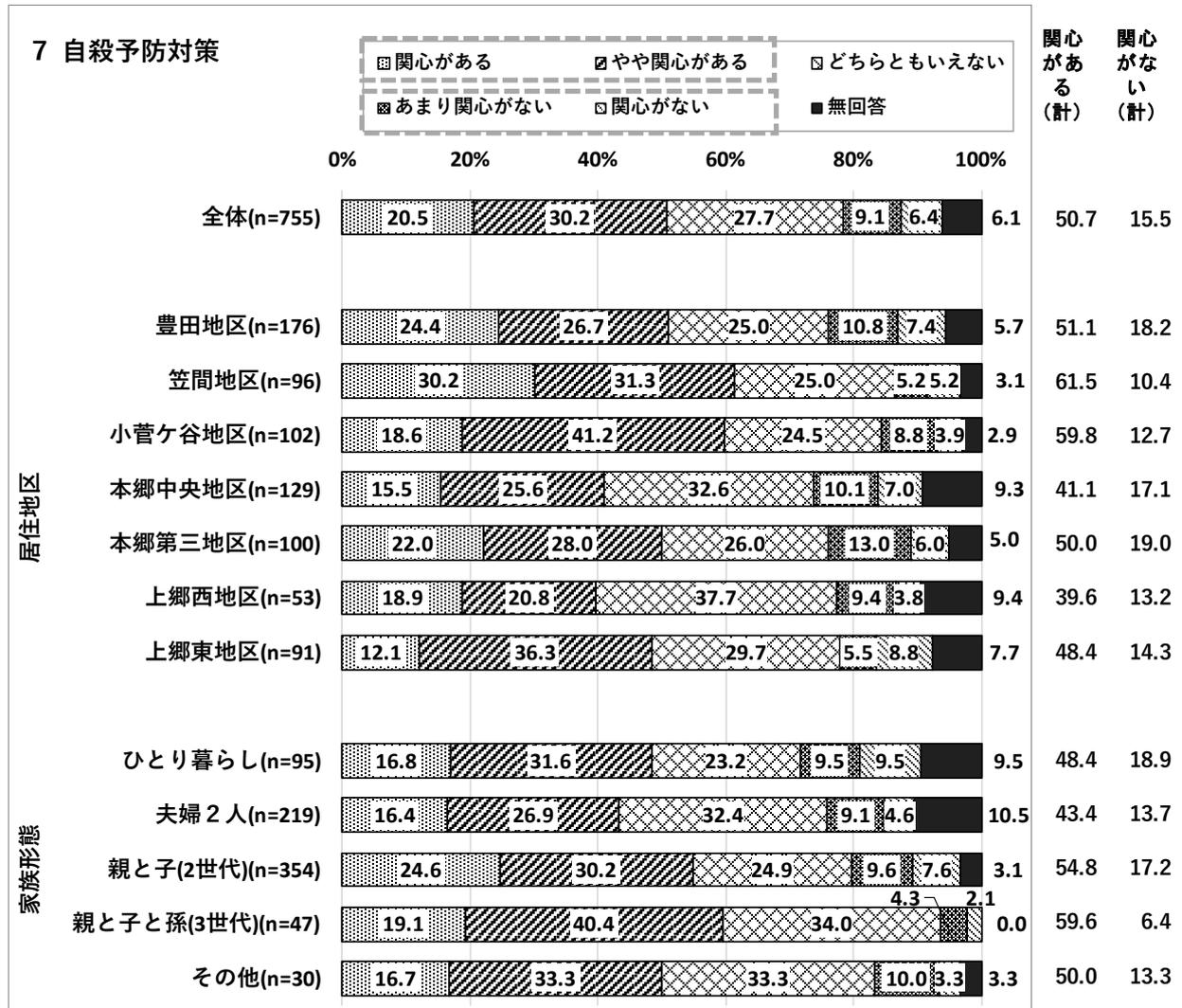


<居住地区別>

・「笠間地区」では、「関心がある」と「やや関心がある」を合わせた『関心がある』の割合が全体より10ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「親と子と孫（3世代）」では、「関心がある」と「やや関心がある」を合わせた『関心がある』の割合が全体より5ポイント以上高い。

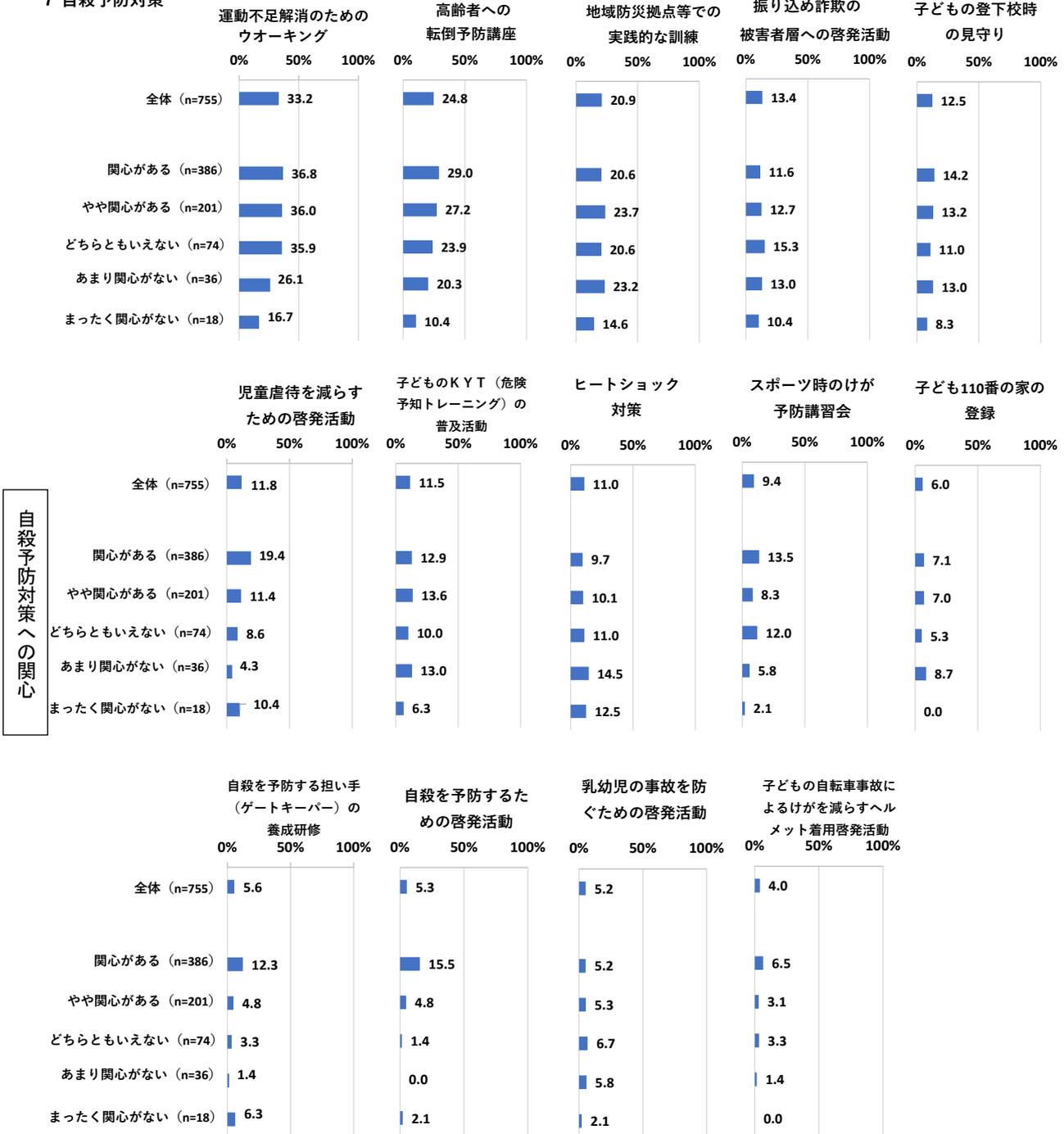


【セーフコミュニティの重点項目への関心：(7)今後参加したい取組との相関】

- ・『自殺予防対策』について「関心がある」方は「自殺を予防するための啓発活動」を今後参加したい取組に挙げる割合が全体より10ポイント以上、「自殺を予防する担い手（ゲートキーパー）の養成研修」「児童虐待を減らすための啓発活動」を挙げる割合が5ポイント以上高い。

今後参加したい取組

7 自殺予防対策



自殺予防対策への関心

8 防犯対策

<性別>

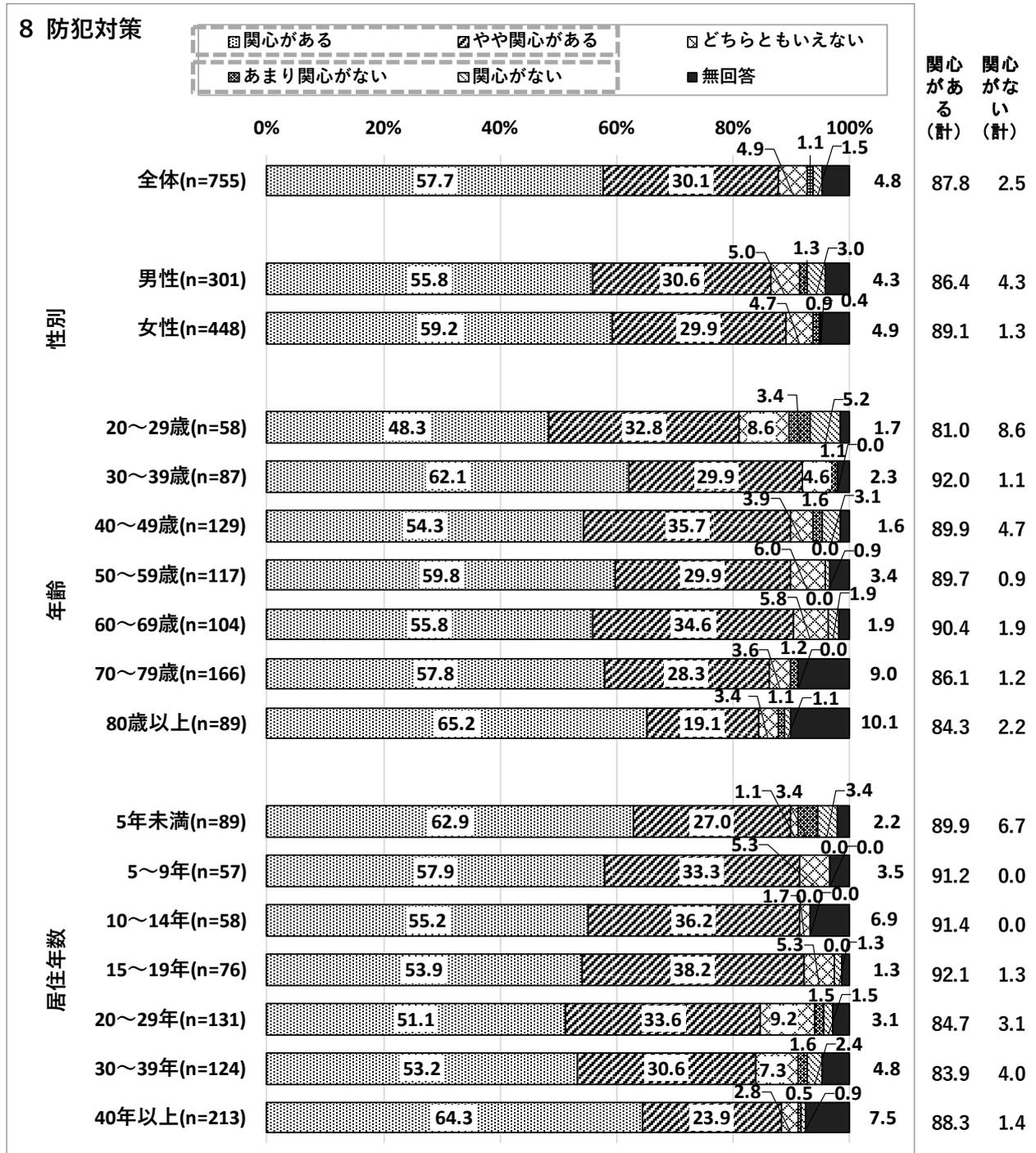
・「関心がある」の割合は、「男性」より「女性」の方が3.4ポイント高い。

<年齢別>

・「80歳以上」では、「関心がある」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住年数別>

・「5年未満」「40年以上」では、「関心がある」の割合が全体より5ポイント以上高い。

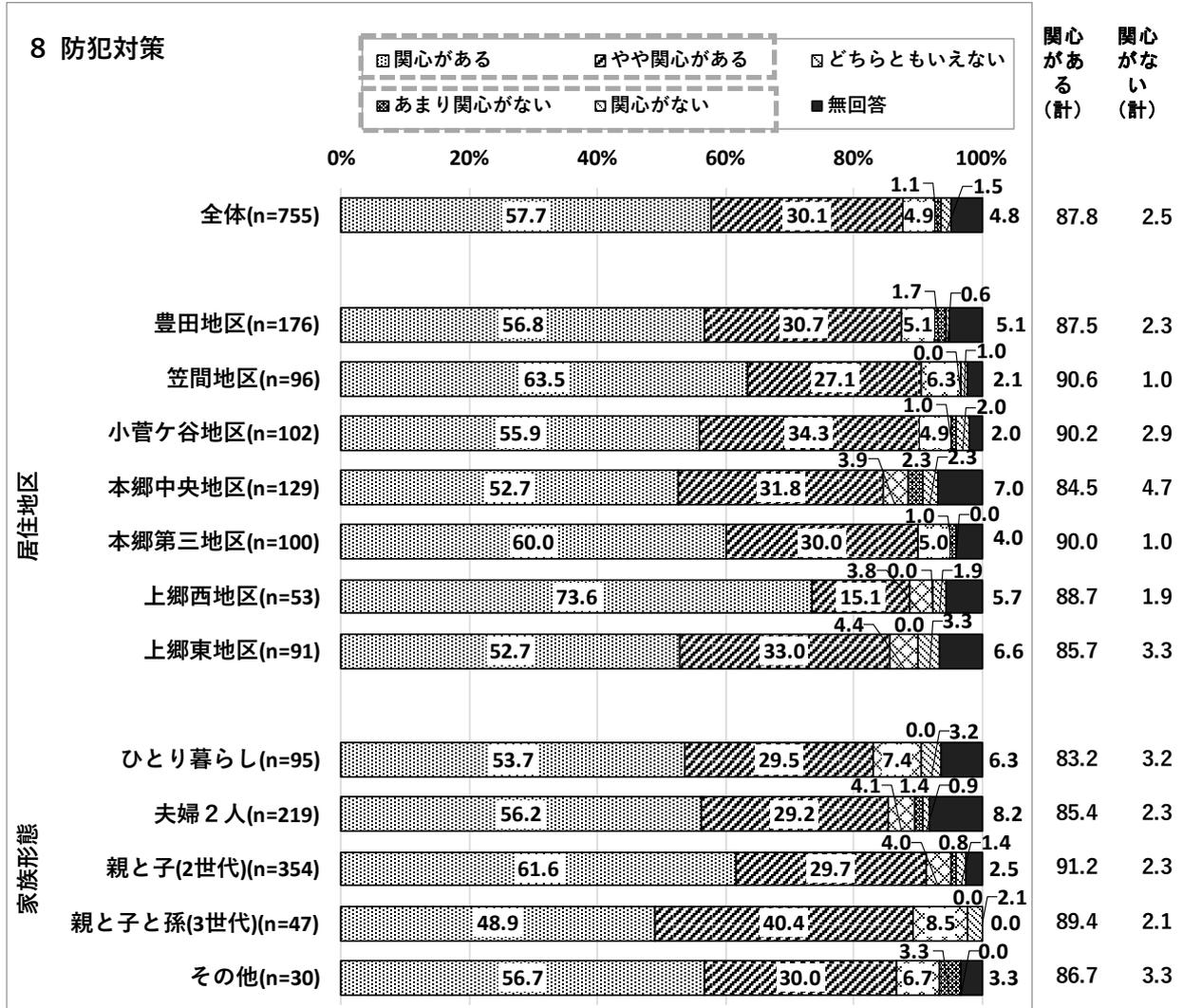


<居住地区別>

・「上郷西地区」では、「関心がある」の割合が全体より15ポイント以上高い。

<家族形態別>

・家族形態別には、大きな差はみられない。



【セーフコミュニティの重点項目への関心：(7) 今後参加したい取組との相関】

- ・『防犯対策』について関心が高い方は、「高齢者への転倒予防講座」を今後参加したい取組に挙げる割合が比較的高い傾向が見られる。

今後参加したい取組

8 防犯対策

